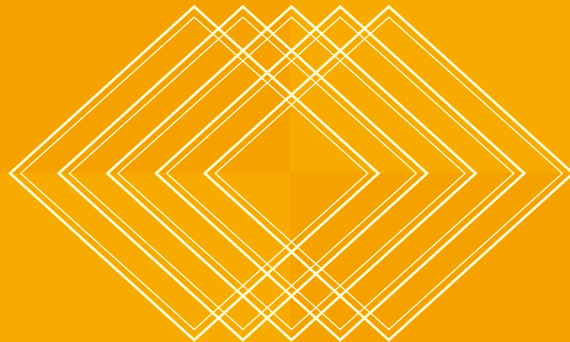


第11回 東北大学「基礎ゼミ」「展開ゼミ」 FD・ワークショップ — 報告書 —



平成30年2月

東北大学学務審議会
高度教養教育・学生支援機構



東北大学

第11回東北大学「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップ 報告書発行にあたって

東北大学高度教養教育・学生支援機構副機構長
総長特別補佐（教養教育担当） 安藤 晃

平成29年11月7日に開催しました第11回「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップの報告書を刊行するにあたり、ご挨拶申し上げます。

昨今の大学を取り巻く環境の変化のなかで、あらためて大学における教育はどうあるべきか、中等教育から高等教育への接続についてのあり方などが真剣に議論されてきています。大学で何を学ぶか、どのように学ぶかは学生にとっても教員にとっても大きな課題ですが、先生からの知識の伝授だけの受け身の姿勢では十分ではなく、自ら理解し自分の考えを提案していく能動的な姿勢が重要です。

本学の「基礎ゼミ」は平成14年度から始まり、今年度で16年目にあたります。本学に入学した学部1年生が参加する少人数ゼミ形式の授業ですが、実施にあたっては本学のすべての学部、研究科、研究所の先生方から担当者が選抜され、文系から理系まで170を超える数多くのテーマを設定し、実施されています。入学した学部の枠を超え、興味をもったテーマに対して参加した学生同士が活発に議論し、実習に取り組んだりしながら創意工夫を行う点に特徴があります。平成25年度からは「展開ゼミ」も開始され、より発展的な課題に対して取り組む学生も増えています。

これらのゼミでは、参加した学生に対し、問題を自ら発掘し、解決への道筋を思考し、それを発表していく能力を養っていきます。総合大学としての強みを活かし、専門家としてだけではなく複合的な視点を持つ大事さも重視しています。また学部の枠を越えた友人作りの場としても期待されています。参加した学生からの評価も高く、「基礎ゼミ」で経験したテーマや、一緒に取り組む仲間との出会いとともに、ゼミを通じて得られた「学び」を高く評価しています。

「基礎ゼミ」「展開ゼミ」では、継続して担当している先生もいれば、年度ごとに新しく担当される先生方もいます。これらの先生方と本科目の趣旨を共有し、実効あるゼミとするために有用なノウハウなど優れた実践事例の報告を毎年継続的に行っています。9月には成果発表会が実施され、「基礎ゼミ」「展開ゼミ」の中から優れた取り組みと成果について、参加した学生によるプレゼンが行われ、表彰する制度が行われています。今回の「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップは、担当された先生が実施した特徴ある取り組みの中から数件の事例を紹介いただき、またその実施にあたって工夫された点やノウハウなども含め報告いただくとともに、教員間で情報交流の場として開催されています。

本報告書はFD・ワークショップにて紹介された内容についてまとめたものです。本報告書を参考に、教員と学生がともに創る授業にむけ、更に新しい進展がなされることを願っています。

第 11 回 東北大学「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップ

日 時 : 平成29年11月7日(火) 13:00~17:00

場 所 : (全体会) マルチメディア教育研究棟2階 M206

(ワークショップ) 講義棟C棟4階 C406, C407, C408

内 容 :

1. 開会挨拶 13:00

学務審議会委員長 花輪 公雄

2. オリエンテーション

「全学教育における基礎ゼミ及び展開ゼミの意義と実施に向けて」 13:05

学務審議会基礎ゼミ委員会委員長 芳賀 満

「基礎ゼミにおける学習・研究倫理教育

～東北大学学習・研究倫理教材の活用と学習支援センターによる授業支援～」

高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター副センター長 佐藤 智子

3. 講演

「配慮を要する学生の理解と対応」 13:30

学生相談・特別支援センター准教授 中島 正雄

～～休憩10分～～

4. 基礎ゼミ実践事例の報告 14:00

① 「黄砂を抑制：最強の砂漠緑化土を作る」～実験・実習型ゼミ実践事例

環境科学研究科教授 高橋 弘

② 「美術を見る・美術について話す」～フィールドワーク型ゼミ実践事例

文学部・文学研究科教授 芳賀 京子

③ 「近代日本の歴史と思想 -国際共修ゼミ-」～演習型ゼミ実践事例

文学部・文学研究科助教 森川 多聞

5. ワークショップ—学生の主体性を育む授業方法— 15:10

A～Cグループの3グループに分かれ、事例報告者を交えてグループ作業を行う

Aグループ：高橋弘教授

Bグループ：芳賀京子教授

Cグループ：森川多聞助教

6. 発表・質疑（各グループの成果発表） 16:35

7. 閉会 17:00

全体会司会：基礎ゼミ委員会委員 葛生 政則

主催：学務審議会 高度教養教育・学生支援機構



開 会 挨拶
学務審議会委員長 花輪 公雄



オリエンテーション
学務審議会基礎ゼミ委員会委員長 芳賀 満



オリエンテーション
学習支援センター副センター長 佐藤 智子



講 演
学生相談・特別支援センター准教授 中島 正雄



講 演
学生相談・特別支援センター講師 長友 周悟



基礎ゼミ実践事例の報告
環境科学研究科教授 高橋 弘



基礎ゼミ実践事例の報告
文学部・文学研究科教授 芳賀 京子



基礎ゼミ実践事例の報告
文学部・文学研究科助教 森川 多聞



研 修 風 景



ワークショップ風景

1. オリエンテーション

「全学教育における基礎ゼミ及び展開ゼミの
意義と実施に向けて」

学務審議会基礎ゼミ委員会委員長 芳賀 満

「基礎ゼミにおける学習・研究倫理教育
～東北大学学習・研究倫理教材の活用と
学習支援センターによる授業支援～」

高度教養教育・学生支援機構
学習支援センター副センター長 佐藤 智子



第11回 東北大学
「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップ
2017年11月7日(火)



全学教育における 基礎ゼミ及び展開ゼミの 意義と実施に向けて

東北大学
学務審議会 基礎ゼミ委員会
委員長 芳賀満
(高度教養教育・学生支援機構 教授)

本日の「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップ ～プログラムと目標～

- このオリエンテーション:「全学教育における基礎ゼミ及び展開ゼミの意義と実施に向けて」
 - 基礎ゼミ及び展開ゼミの趣旨と実施上の留意点を確認
- オリエンテーション2:「基礎ゼミにおける学習・研究倫理教育」
 - 東北大学学習・研究倫理教材の活用と学習支援センターによる授業支援について説明
- 講演:「配慮を要する学生の理解と対応」
 - 高度教養教育・学生支援機構 学生相談・特別支援センター中島正雄准教授
 - 学生対応の諸問題を認識
- 基礎ゼミ実践事例 3つの報告:
 - 本年度の基礎ゼミ(タイプ別)担当教員から成果報告
 - 授業実践の方法・工夫などを学習
- ワークショップ:
 - 基礎ゼミ担当教員の実践例をもとに、「学生の主体性を育む授業方法」と授業実践上の手法や工夫を共有化

特に高い授業評価の
3つの優れた基礎ゼミ授業

基礎ゼミ

- 少人数、「課題解決型」授業
- 基礎ゼミの原型は、2002年度に開発。
- 新入生全員を対象
- 学部教員のみならず、附置研究所の教員も担当
- 授業形態は、従来の教員が講義し学生が座って聴くという「座学型授業」でなく、設定された課題を学生が自ら主体的・能動的に行動し解決策を考え、他人に対しレポートと口頭発表で表現する、新しい「課題解決型」タイプ
 - 協調力、理解力、能動的行動力、表現力、説得力などの向上
- 従来の授業形態と異なるので、教員は授業技術の習得が必要。
 - 本日のFD・ワークショップ
- 多くの大学で少人数授業が実施されているが、全学の学生と教員が参加する形態で行っているのは東北大学のみ。
- 文理融合型であるのも、本学の特徴。
- 新入生の99パーセント以上が受講。
- 約170の基礎ゼミ、1つ当たりの受講生は平均15人。
- 授業評価は大変に高い→展開ゼミも開講へ。

東北大学全学教育の構成

基幹科目

人間論・社会論・自然論: 専門分野の如何を問わず、豊かな教養と人間性に裏付けられた知的探究心を養う

展開科目

人文、社会、自然の諸科学に関する基礎的知見、学際的視点を身に付け、専門教育へと展開する知的基盤を養う

共通科目

「基礎ゼミ」「外国語科目」「情報科目」「保健体育科目」等
本学学生ならびに現代人としての基本的素養と技能を学び、能力や技能を自己開発するための起点を形成する

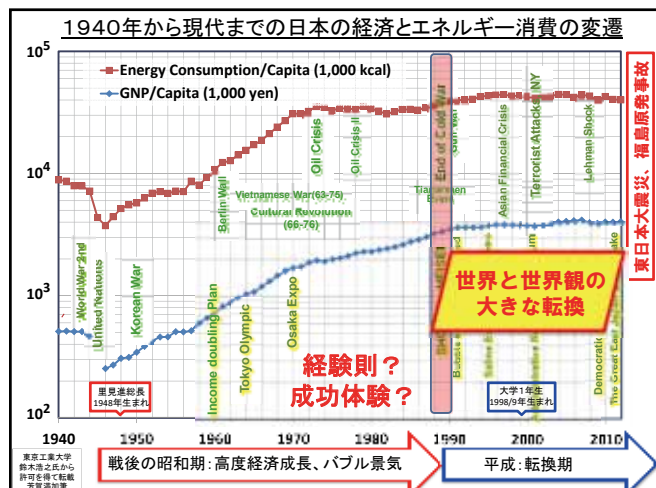
昨年度から
「基礎ゼミ」  FD・ワークショップ

「展開ゼミ」は

- 「基礎ゼミ」から発展的に生まれた科目
- 1年次前期の「基礎ゼミ」での入学後半年間の「大学での学び」の経験をもとに、1年次後期に「展開ゼミ」を実施。
- 「基礎ゼミ」で育まれた主体的な学修姿勢をさらに高める科目
- 「基礎ゼミ」と同様の教育手法と目的
 - 演習・実習・実験・フィールドワーク等のアクティブ・ラーニングを取り入れた20名程度の少人数教育の授業形態

→今日のFD・ワークショップには「展開ゼミ」をも含む。

東北大学のめざす全学教育、 特に基礎ゼミ、展開ゼミ～学びの転換



小型化・密集化、有限化する世界 ～1990年以來のここ20年間ほどの巨大な変化～

1. 人口増大
 - ・1990年 52.79億人→2013年 71.25億人、1.35倍に。特に発展途上国で増大。
 - ・(参考)旧石器時代末期の紀元前1万年の人口は現在の1パーセント以下
 - ・(参考)ギリシア・ヘレニズム時代の世界人口は1.5億人程とされる
2. IT技術の革命的進展
 - ・コンピュータの処理能力: 20年間に100万倍に
 - ・世界規模での情報網の発展と様々な情報の同時共有
 - ・(参考)農業開始などの「新石器革命」は3000年以上かかる
3. 東西構造の崩壊～ソ連崩壊、中国・韓国発展
 - ・経済システムの統一
 - ・世界規模での資源獲得競争の激化
 - ・イスラム世界の進出
 - ・多様性の尊重、様々な分野での対象の相対視化の進展
4. 地球システムの解明の進展と
地球システムの脆弱性と有限性の認識
 - ・温暖化現象などの地球規模での気象研究などから

References:
Brahm, Jean-Noel, 1980
Durand, John D., 1974
Haub, Carl, 1995
McEvedy, Colin and Richard Jones, 1978
Thomlinson, Ralph, 1975
United Nations (UN), 1973
United Nations, 1999
U.S. Bureau of the Census (USBC), 2002

東京工業大学
鈴木浩之氏から
許可を得て転載
芳賀満朗氏・加工・加筆

ここ20年程の教育上の変化 ～教育から学修へのパラダイム転換～ ～知識中心主義教育から課題対応能力育成へ～

- ・ 1995年頃、アメリカ(=人類社会の先端実験室)で始まる。
- 「大学の目的は学生の学習を生み出すこと」
(Robert B. Barr & John Tagg in Change 1995)
- ・ 能動的学修(アクティブラーニング)(中教審)
教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、
学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。
学修者が能動的に学修することによって、
認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。
発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、
教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。
- ・ 従来の知識伝授型教育(これも重要で有効)と
新しい能動的学修(「基礎ゼミ」及び「展開ゼミ」)

9

本田由紀

『多元化する「能力」と日本社会』
NTT出版 2005年

- 近代型学力 → ポスト近代型学力
- 基礎学力
- 標準性
- 知識量・知的操作の速度
- 共通尺度で比較可能
- 順応性
- 協調性
- 生きる力
- 多様性
- 意欲・創造性
- 個性・個性
- 能動性
- ネットワーク形成能力

10

Actively Teaching Teacher から Actively Learning Students への転換

- ・「今まで教室の中で一番活動しているのは教師で、生徒は退屈そうに教師の話を聞いているだけ」
(「反転授業」(flipped classroom)の創始者の一人である第一人者のAaron Sams氏の2014年5月24日の東京大学での講演から～高度教養教育・学生支援機構の杉本和弘先生からのご教示)
 - ・ 一生懸命に準備して、精一杯に話す授業が失敗する経験...
 - ・ 教室で一番勉強しているのは教師...
(高度教養教育・学生支援機構の杉本和弘先生からのご教示)
 - ・ 教員は教えることを最小限にして我慢して、
学生が主体的に積極的に学修する工夫を
 - ・ 「基礎ゼミ」「展開ゼミ」: 「教員が一方的に教授する講義形式」
→「学生の主体的能動的な学修をうながすゼミ」が望ましい
- ～是非、「基礎ゼミ」「展開ゼミ」で実施、場合によっては他の授業へも応用を

11

東京大学の「初年次ゼミナール」

- ・ 2015年度から全1年必修で導入。
- ・ 「文系では従来の基礎演習を発展的に改編・刷新し、理系では新たにその科目を導入し、各教員の専門性を生かしながら、どの専門分野でも必要な基本的研究技法を習得するもの」。
『東京大学新聞』(2014.6.17 日号)石井洋二郎教養学部長へのインタビューから
- ・ 「ひとりよがりな知識の集約に終わる危険性」を避け、「学問全体に開かれたはつきりとした共通基盤を与える」。
- それがないと、昨今のスキャンダル。
- ・ 学問の共通基盤を与えるもの＝初年次ゼミナール

12

東北大学の「基礎ゼミ」

- ・ 少人数、学問の基本的技法と共通基盤の獲得。課題解決型授業
- ・ パークレー大学^(70人以上のノーベル賞受賞者輩出)の初年次ゼミをひとつの手本に。
- ・ 基礎ゼミの原型は既に2002年度に開発。

- ・ 新入生全員を対象
- ・ 学部教員のみならず、附置研究所の教員も担当

多くの大学で少人数授業が実施されているが～

- ・ **文理の学生が融合して文理融合型ゼミに参加するのは、東北大学のみ。**
 - － トランスサイエンスの時代
 - － 所属学部を越えた友人の輪
- ・ **全学の学生と教員が参加する形態で行っているのは東北大学のみ。**
 - － 新入生の99パーセント以上が受講。

→真に能動的な学修、多様で批判的な視座の思考力の涵養



高等教育政策に関わる最近の一部の兆候

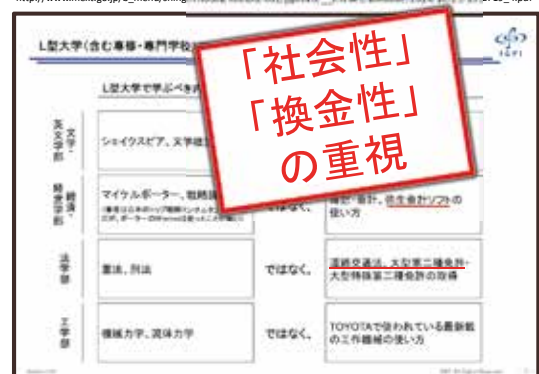
- ・ 安倍晋三首相 2014年5月6日、OECD・閣僚理事会・基調演説
「だからこそ、私は、教育改革を進めています。学術研究を深めるの**ではなく**、もっと**社会のニーズ**を見据えた、もっと**実践的な、職業教育**を行う。そうした新たな枠組みを、高等教育に取り込みたいと考えています。」
(http://www.kantei.go.jp/jp/96_abe/statement/2014/0506kichoken.html)

- ・ 文部科学省 実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に関する有識者会議（第1回）2014年10月7日
(株)共創基盤代表 富山和彦氏の私見
 - ・ **「ごく一部の「トップ大学」以外はすべて「職業訓練校化」すべき**
 - ・ **Globalの世界に通用する人材を輩出できる大学は、そのような領域に特化した教育を行い、それ以外は「生産性向上に資するスキル保持者の輩出」に力を注ぐ「職業訓練校(Local型大学)」とすべき。**
 - ・ **そこで重視されるのは、学問より「実践力」**

(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/061/index.htm) 15

高等教育政策に関わる最近の一部の兆候

平成26年(2014年)10月7日
文科省「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に関する有識者会議」
東大、弁護士、経営コンサルタント 富山和彦氏のプレゼンのp.7
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/061/shingi/1352719_4.pdf



下線
芳賀 15

高等教育政策に関わる最近の一部の兆候

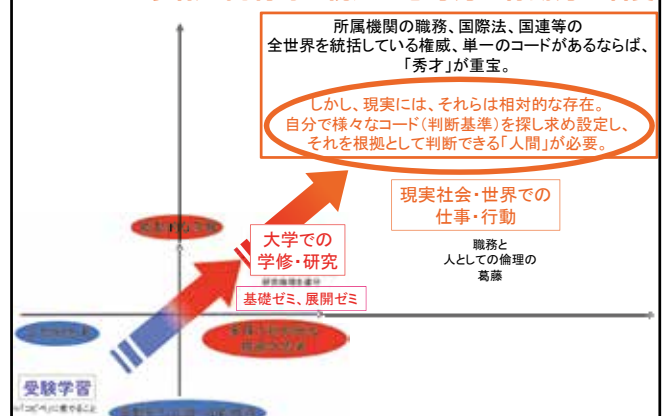
～「6・8通知」～

国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて
平成27年(2015年)6月8日 文部科学大臣決定

- ・ 文部科学大臣が国立大学法人等の第2期中期目標期間終了時までに**行う組織及び業務全般にわたる見直しの内容を、国立大学法人については別紙1、大学共同利用機関法人については別紙2のとおり決定する。**
今後、第3期中期目標・中期計画が本決定に沿った内容となるように国立大学法人及び大学共同利用機関法人に求めるとともに、所要の措置を講じることとする。
- ・ (別紙1)国立大学法人の第2期中期目標期間終了時における組織及び業務全般の見直しについて
 - － 第3 国立大学法人の組織及び業務全般の見直し
 - － 1 組織の見直し
 - － (1)「ミッションの再定義」を踏まえた組織の見直し
 - － (前略)特に教員養成系学部・大学院、人文社会科学系学部・大学院については、18 歳人口の減少や人材需要、教育研究水準の確保、国立大学としての役割等を踏まえた組織見直し計画を策定し、**組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう努めることとする。**

文科省
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/062/gpoku 17

→真に能動的な学修による 多様で批判的な視座の思考力と行動力の涵養





Adolf Otto Eichmann
(1906-1962)

「智」

ゲシュタポ・ユダヤ人課課長・親衛隊中佐
ユダヤ人問題の最終解決
"Die Endlösung der Judenfrage"
ホロコーストとしてユダヤ人500万人虐殺。
イスラエルで裁判:「職務に忠実に従っただけ」
思慮、良心、想像力を欠いた組織の「歯車」
「悪の凡庸さ」(ハンナ・アーレント)

「一次的人間」
(One-Dimensional Man)
=専門家としての
ポジションが、
活動のレンジを
1つのコードで規定
→ユダヤ人を殺すべきでないという
他の多くの多様なコードを参照しない。



杉原千畝
(1900-1986)

「愚」

リトアニアのコンスチタス領事館領事代理として
しかし外務省の訓令に反して
ユダヤ系難民に大量の日本通過ビザを発行

組織人としての「服務規律」と
人としての「倫理」
との間での葛藤

基礎ゼミ、展開ゼミ、
双務教育の目的
様々なコード(判断基準)を
自分で探し求め設定し、
それを根拠として判断できる人間

専門とそれ以外のコードや文脈との間の
「往復」の訓練が必要
(=教養教育が必要)

「(智愚)の差は非上有一」



今日の第2部のワークショップ

—学生の主体性を育む授業方法—

Aグループ:

Bグループ:

Cグループ:

「黄砂を抑制:最強の砂漠緑化土を作る」
～**実験・実習型ゼミ**実践事例
環境科学研究科教授 高橋 弘 先生

「美術を見る・美術について話す」
～**フィールドワーク型ゼミ**実践事例
文学部・文学研究科教授 芳賀京子 先生

「近代日本の歴史と思想-国際共修ゼミ」
～**演習型ゼミ**実践事例
文学部・文学研究科助教 森川多聞 先生

- ・ 各グループでは講師に対する質疑応答の後、討議によるグループ作業を行う
～**仮にグループ分け。ご希望があれば別のグループへ適宜変更可。**
- ・ 課題:基礎ゼミにおいて学生の主体性を育む授業方法として、
「良い手法3例」と「改善を要する手法3例」をまとめ、全体会で発表

「基礎ゼミ」、「展開ゼミ」の 成績評価と授業の質保証

- ・ 学生による授業評価アンケートの結果(平成25年度前期 semester～)
 - 基礎ゼミ授業科目は全般に大変に高い評価を得た。
 - だが、「成績評価法の説明」については肯定的評価が平均を下回る。
 - 学生に対して教員が成績評価法を明快地提示することが必要
- ・ 授業としての**目標水準を明確に設定**した上で成績評価法を決定
- ・ 教員がその**成績評価法**を学期冒頭に**学生に明瞭に提示**
- ・ 以て基礎ゼミ・展開ゼミの授業としての質保証を図る。

学部学生への 研究倫理の教育

(大学院生への教育は研究室単位で可能)

- ・ 「**基礎ゼミ**」授業の中で研究倫理の説明をお願いします。
→ 次のオリエンテーションで説明
- ・ なぜ「**基礎ゼミ**」なのか。
 - 「受験勉強」=「コピペ」に秀でる事
 - 「研究」=「研究倫理」の遵守
- 「**学びの転換**」を図る授業の目的に沿う
- ほぼ新入生全員が受講する科目である

基礎ゼミ 実施に係わる経費について

(配付資料 4)

- ・ 【基礎ゼミ実施経費支出の注意事項】

どういう場合であっても、学生に立て替えさせることは禁止

- ・ 切符等は、
 - 「事務が購入する」か、
 - 「教員が立て替え払いする」。
- ・ なお、学生の車の使用も禁止。
- ・ その他、不明な点、わからない点などは、事務と相談して下さい。

基礎ゼミ成果発表会 (毎年9月末)

- ・ 基礎ゼミで学んだことを公開発表
- ・ 学生が主体的に運営



口頭発表



ポスター発表(1か月)

ご清聴 ありがとうサギ

大震災を忘れず、
未来へ



東北大学 高度教養教育・学生支援機構 芳賀満
mhaga@m.tohoku.ac.jp

25

Toboku University student learning adviser ともが学ぼう、ともに育とう、ともが学ぶ Together we learn, Together we grow. TOMOGOSOGACU!

2017年11月7日(火)
川内定本キャンパス
マルチメディア教育研究棟M206

[基礎ゼミ・展開ゼミFD]
**東北大学学習・研究倫理教材の活用と
学習支援センターによる授業支援**

東北大学 学習支援センター

※ 東北大学 学習支援センター Toboku University, Center for Learning Support

学習支援センター&SLAとは...?

主に**学部1・2年生(全学教育)**を対象として、**学生の主体的・自律的な学習**を実践的に促進・支援するためのセンターです。

実際に支援するのは**Student Learning Adviser (SLA)**と呼ばれる先輩学生たち。

ライティングの質問対応やセミナーの実施、**学習イベント**の企画実施などを行っています。

詳しくはホームページへ
<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/>

※ 東北大学 学習支援センター Toboku University, Center for Learning Support

1. 『レポート指南書』入門ゼミ

大学生に必要なレポートや論文を書く力、そしてそのための考える力。

これを学ぶための参考書が『レポート指南書』です。

しかし！読むだけじゃなんとなくわからないなあという人のために、指南書の中からいくつかのトピックを取り上げ、ワーク形式で体験・練習できる場を作ろうと企画されたのが「指南書入門ゼミ」！

SLAの先輩たちと学習支援センタースタッフが協力してお届けします☺

※ 東北大学 学習支援センター Toboku University, Center for Learning Support

1. 入門ゼミに関わる授業支援

- ① 連携** 「授業の中ではできないが、学生に自発的に参加してほしい。」
✓ **学生に参加を推奨していただき、参加状況を後日センターからご報告します。**
- ② コンテンツ提供**
「学習倫理教材を使えと言われても、新たに準備をするのが大変...。」
✓ **入門ゼミのスライド資料&ワークなどを提供します。適宜、アレンジしていただいても構いませんので、ぜひ活用してください！**
- ③ 出前授業**
「入門ゼミの一部を授業に取り入れてみたいが、ワークなど自分だけではうまく実施できるか不安だ。」
✓ **学習支援センターのスタッフ(教員)が、授業の1コマ分(90分) or 1/2コマ分(45分)で出前授業を行います。**

※ 東北大学 学習支援センター Toboku University, Center for Learning Support

2. レポート作成支援

2017年度後期セメスター
ライティング支援の窓口開設

	月	火	水	木	金
4 講時	○	○	○	○	×
5 講時	○	○	○	○	×

執筆前の構想段階
執筆中の相談
執筆後のブラッシュアップ

どの段階の質問もOKです!

※ 東北大学 学習支援センター Toboku University, Center for Learning Support

SLAライティングサポート 利用証明書発行サービス

受講生のレポートの質をあげたい
“一発書き”ではないレポートの取り組みませ方をしたい
課外学習を促進したい
学生の質問内容を知り自身のライティング指導にも活かしたい

SLAライティング窓口の利用をぜひご案内ください!

事前に申請いただいた授業のレポート課題で窓口を利用された学生に対し、「**利用証明書**」を発行するサービスを行っています。本サービスをご希望の先生は、下記内容をセンターまでご連絡ください。

■申請時連絡内容■
①教員名
②授業科目・授業題目名(複数ある場合は全て)
③レポート枚数(複数ある場合はそれぞれ)

!「利用証明書」発行サービスの注意!
・証明書発行は、通常の利用の学生に対しては行っておりません。発行対象かどうかは、学生の申し出(「利用記録用紙」に記載する授業名情報など)により判断します。そのため、**学生自身の申し出に不備があった場合は、証明書発行が行き届かない可能性があること**を予めご了承ください。
・証明書の発行後の取り扱いは、(提出の有無等)については、先主方に一任いたします。センターから学生に指示は致しません。

※ 東北大学 学習支援センター Toboku University, Center for Learning Support

3. 学習イベント企画による授業支援（案）

① テーマ連動型ワークショップの開催

「授業中に取り上げるテーマについて、授業時間内に十分に学生同士が議論する時間を取れない。」

✓ 学習支援センターで、基礎ゼミの授業とのテーマ連動型ワークショップ等を企画・実施したいと考えています！

a. 【緩く連動型】

ディスカッション・テーマなどを学習支援センターに提供してください！

b. 【強く連動型】

基礎ゼミの受講生の皆さんの「授業時間外での関連学習」の場を、学習支援センターとの共同実施で開催。

学習支援センターの場所

川内北キャンパス

マルチメディア教育研究棟1階

SLAラウンジ

お問い合わせ・ご相談は、
学習支援センターまで
気軽にご連絡ください！

□ 学習支援センター（サポート室）連絡先
sla-support@grp.tohoku.ac.jp





アカデミックスキルセミナー

『レポート指南書』 入門ゼミ

再²

1回
45分

@SLAラウンジ
(M棟1階)
予約不要

前期参加できなかった方へ～
レポートの書き方をマスターしよう！
「本を読むだけではわかりにくい」
というあなたに、**ワーク形式**で
身につく入門ゼミをお届けします！

学部オリエンテーション
で配布された冊子です！



★★★ PROGRAM ★★★

- 1 思考を整理して問いを立てよう！
－マインドマップ活用術－
1章 11/13(月) ①15:00-15:45
相当 11/15(水) ②15:00-15:45 ③16:30-17:15
- 2 レポートの構成を見抜け！
－アウトラインの実践法－
3章 11/20(月) ①15:00-15:45
相当 11/22(水) ②15:00-15:45 ③16:30-17:15
- 3 誰でもできる！わかりやすい文章
－パラグラフライティングの書き方－
3章 11/27(月) ①15:00-15:45
相当 11/29(水) ②15:00-15:45 ③16:30-17:15
- 4 極める・引用！
－先人の知恵を借りる技－
4章 12/04(月) ①15:00-15:45
相当 12/06(水) ②15:00-15:45 ③16:30-17:15
- 5 レポートを磨け！
－推敲の奥義－
5章 12/11(月) ①15:00-15:45
相当 12/13(水) ②15:00-15:45 ③16:30-17:15

♪ 各テーマ3回ずつ実施します。同じ内容ですので都合のよい時間帯にぜひ来てください！
♪ 予習なしでもOK！ですが、事前に読んでおくと、よりスキルアップできます！

2017後期

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター(SLAサポート)
<http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp> 川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1F

ともと学ぼう、ともに育とう、ともぞだち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI !





2017年7月29日 第12回交渉学ワークショップ(於 関西大学) ポスター発表

学生による学生のための企画発信型学習支援プロジェクト —東北大学学習支援センターにおける企画担当SLAの取組—

福地成彦・阿部智恵莉（東北大学学習支援センター企画担当SLA）

東北大学 SLAとは

学習支援センターで、主に学部1,2年生の学びを先輩学生がサポートする学生スタッフ。授業時間外において学生同士で学び合う力をはぐくむことを目的とし「ともと学ぼう、ともに育とう、ともぞだち」を理念に掲げている。数学会部・物理部会・化学部会・英語部会・ライティング部会・企画部会の6つで構成され、それぞれの部会で専門を生かし学習支援活動をしている。

企画担当 SLAとは

活動開始：2016年10月～
支援対象：全学教育段階の学部1・2年生
支援内容：学生の主体的な学びを支援するプロジェクトの企画・運営
メンバー構成：学部3年生～大学院修士課程院生の7名

SLA雑談会



目的

新入生と先輩との雑談の場を提供する。新入生は大学生活になじみがなく、その状況が続けば大きなハンディを背負うことになるため、新入生が先輩学生と話せる場をつくる。

企画内容

より多くの学生をサポートするため気楽に参加して聞きたいことを聞ける場所として雑談会を企画した。各日4つ以上の学部の学生らと質問者が満足いくまで雑談を行った。

成果

合計で10人を超える新入生が参加。2日に渡って参加して自らの疑問を解消した学生もいた。

チャレンジボード



目的

学生同士の学び合いの場・環境を提供する。さらに、出題と解答のサイクルのなかでボードを中心とした学生同士の知的交流の場を生み出す。

企画概要

SLAスペース内に学生が問題を提出したり解答を書き込んだりするようホワイトボード2か所を設置した。

成果

学生による問題の出題と解答のサイクルが出来上がっている。また、当初は理系の出題が大半を占めていたが、文系の分野からの出題も多く、良い意味で予想を裏切られる形になった。

今後の課題

2枚設置したボードうちの1枚がややアカデミックな内容から離れた書き込みが多くなっている。ただ、「書き込み内容に制限を設けることは自由な学びを阻害するのではないか」という意見もあり、今後は要検討である。

考えるソファ

背景

公共スペースに様々な人が集まり哲学的なテーマについて議論するイベントである「てがつくカフェ」を参考に発案したのが「考えるソファ」である。

学生がふだん体験できないような（気の合う友人との“会話”ではなく）見知らぬ人との“対話”が体験できる場があれば、学生にとっては、思考やコミュニケーション能力を高めることができると考えた。

一方、東北大学にはそのようなだれでも参加できるという意味で“開かれた”対話の場がないことに気付いた。また、過去の企画イベント（アカデミアトーク）でも、同じく“対話”をするコンテンツの満足度が、プレゼンへの満足度より高かったことから、“対話”の場に需要があると考えた。

目的

初対面の学生同士が集まり、あるテーマについて深く考え、じっくりと対話をしたり議論をしたりする場を大学内に作る。



活動内容

火曜日の夕方、1時間、学生を集めてワンテーマで“対話”するイベント。大学1、2年生が気になっていると思われるような、日常的で身近なテーマを設定するようにしている。第1回のテーマは「目標は持つべきか?」、第2回は「大学生は恋愛をするべきか?」にした。今後のテーマ候補としては「アイドルの恋愛禁止は妥当か?」「考えるとはなにか?」「内向的の何が悪い?」などがある。

スタッフは、事前資料（テーマについて考えるきっかけとなるもの）を用意し、ファシリテーターとファシリテーショングラフィック担当者として、学生の対話を促す役割に徹する。



成果

来場者数：第1回は3人 第2回は6人。学部1年生～3年生、経済文学工学理学など幅広い層の参加者。

第1回、第2回とも、参加者が、テーマに対する疑問やあいまいな点を自発的に定義し、そこから自然に幅広い方向へ議論が発展。すべての参加者が主体的に意見を交わし合うことができ、非常に有意義な時間となった。運営側としても、事前に様々な視点を想定していたが、実際には提案する必要はなく議論の整理に徹した。イベント後のアンケートでは「自分の考えを伝えることが出来て楽しかった」「他人の意見が面白かった」「もっと語りたかった」などの意見があり、企画の目的を達成することができた。

今後の課題

今後継続して開催することから、各回で興味をひくようなテーマを設定することが求められる。更に、SLAメンバーがファシリテーションやファシリテーション・グラフィックのスキルを身に付けることでより有益な対話を引き出すことが望ましい。

<<今後の展望>>チャレンジボード、考えるソファの継続に加え以下の2つを計画中

コタエテ! SLA



背景

SLAの日常的な活動は窓口対応が中心。学生が、直接SLA窓口に来て相談する以外の方法で学習支援ができないかという課題意識。

目的

より多くの学生と交流する仕組みを作る。学生の投稿を回答とともに公開することで、より多くのラウンジ利用者と悩みや解決策を共有する。

企画内容

窓口対応を行う部会メンバーに、シフトの空き時間等を利用して学生からの投稿に回答してもらう。後日、それをSLAラウンジ内に掲示する。（右上図参照）

これから

ポスターや質問意見箱等は設置済み。他の掲示物に紛れているため、SLAラウンジ内の掲示物全体を整理することが課題。後期からは本格的に広報活動を進める予定。



日本語カフェ

背景課題

東北大学の留学生は、授業や教科書で日本語を学んでも、日常的に日本人学生と会話する機会が少ないという実状がある。アンケート調査によると、留学生の約1/3が「日本人の友達が少ない」と回答している。

目的

SLAを含む日本人学生とコミュニケーションをとる機会を設け、留学生の日本語スキル（特に聴く・話す）を高めることで、多文化交流を促す。

企画内容

特に日本語中級者を対象に日常的なテーマに基づいて日本語で会話をを行う。1回のセッションは約40分で、

アイスブレイク (5分) 会話 (25～30分) リフレクション (5～10分)

という流れを基本とする。リフレクションでは、その日話した内容や新しく覚えた表現をふり取り、知識の定着を図る。

これから

7月現在ではプレ実施の段階。後期からは週1程度のペースで定期開催することを目指している。

総括

2017年度前期の活動をふり取り、企画SLAとして備えるべきスキルとして「ファシリテーション力」と「広報力」が挙げられた。前者は、考えるソファや日本語カフェ等の定期開催や、頻繁に行われる企画SLA内のミーティングを鑑みると、有効な対話や議論を促すスキルはメンバーそれぞれが身に付けておきたい。後者の「広報力」に関しては、今後様々な企画を発信していく上で、学内へのポスター掲示はもちろん、より多くの学生に認知してもらうようSNSの利用や企画SLAのHP作成、学内へのmail配信など様々な戦略が考えられる。企画SLAの認知度をもっと上げていくことが今後の課題である。

<左記資料等に関するお問い合わせ先>

東北大学 高度教養教育・学生支援機構
学習支援センター (SLAサポート)
Tel: 022-795-3374
Mail: sla-support@grp.tohoku.ac.jp

「基礎ゼミ」実施に当たっての留意事項

1. 受講者の決定について

新入生は、大学から入学前に事前に送付される「基礎ゼミの手引（シラバス）」を参考にして、受講を希望する課題を第5希望まで選び「基礎ゼミ受講希望届」を入学後のオリエンテーション時に提出します。この「基礎ゼミ受講希望届」を基に、電算処理によってクラス分けを行います。

また、2年生以上の学生が受講を希望する場合も同様のクラス分けを行います。

クラス分けの結果については、学生には掲示及び全学教育ホームページにより発表します。各担当の先生方は学務情報システムより受講者名簿をダウンロード願います。

注： 2年生以上の学生が新入生と一緒に受講する場合があることを予め了承願います。
(支障がある場合は、事前にお知らせ願います。)

注： 後述4-②の関係で、クラス分け後に履修者の追加をお願いすることがあります。
その際は、可能な限り受け入れてくださるようお願いいたします。

2. 初回の授業について

一般の授業の開始日は平成30年4月9日（月）ですが、「基礎ゼミ」の授業のみクラス分け作業のため、4月16日（月）から始まります。

3. 開講までの流れ（案）

平成29年12月中旬	<u>基礎ゼミの手引（シラバス）原稿作成期限</u>
平成30年4月4日(水)午前	入学式
4月4日(水)午後～6日(金)	新入生オリエンテーション
4月6日(金)夜	事前に記入した基礎ゼミ受講希望届用紙の回収
	2年次（再履修等）受講希望届提出締切り
4月7日(土)～8日(日)	受講希望届（マークシート）読取り作業（TEC）
4月9日(月)午後～11日(水)午前	クラス分け抽選作業（データ処理）
4月11日(水)午後	全履修者の名簿作成作業
4月12日(木)	学生にクラス分け発表（掲示）
4月13日(金)	<u>受講者名簿ダウンロード（学務情報システム）</u>
4月16日(月)	<u>基礎ゼミ初回授業（月曜）</u>
4月19日(木)	<u>基礎ゼミ初回授業（木曜）</u>

4. 集中講義を行う場合について

① オリエンテーションの実施

「基礎ゼミ」を集中講義で実施される場合、集中講義の日程及び場所等を周知するため、オリエンテーションを実施していただく必要があります。

オリエンテーションの実施日時については、「基礎ゼミ」専用時間帯の

4月16日（月）3，4，5講時

4月19日（木）5講時

の中のいずれかの時間帯に必ず実施くださるようお願いいたします。

ただし、4月16日（月）5講時及び4月19日（木）5講時は、講義棟C棟が学生の課外活動で使用されるため、十分な教室数を確保できない状況にあります。

オリエンテーションの実施については、できる限り4月16日（月）3講時または4講時のいずれかで実施くださるようご協力をお願いします。

※ オリエンテーションの日時・場所については、基礎ゼミシラバスに記載してください。（シラバス作成については別途依頼します。）

② 実施日程決定時の注意事項

集中講義の日程を決定する際には、受講学生と十分に話し合って決めて下さい。

成績報告期限に間に合う日程での開講に、ご協力をお願いします。通常の授業期間中（平日）には、他の授業と重複するため集中講義を実施できません。

夏季休業中に行われる科目（集中講義や専門科目の実習等）の履修者がいる場合、期間が重複する日程での開講は避けてください（学生は同時に履修できませんので、いずれかを履修できなくなります）。

どうしても調整がつかない場合は、基礎ゼミのクラス変更となります。そのため、集中講義で開講される場合は、必ず前述4－①の期間のいずれかに、初回オリエンテーションを行ってください（それ以後に日程重複が判明した場合、クラス変更は難しくなります）。

参考：授業期間

4月 9日（月）～8月 6日（月）

成績報告期限

8月20日（月）予定

※やむを得ず9月以降に集中講義を実施する場合は、早急に成績報告をしていただくようご協力をお願いいたします。

教職科目の集中講義

9月10日（月）～27日（木）

専門科目の集中講義

初回オリエンテーションまでに日程表を送付します。

5. 最大受講者数の緩和について

クラス分け作業の結果、希望の重複により20名で区切れない状況が生じる可能性があります。その場合、実験などの受講制限が必要な科目を除き、受講者数を最大22～23名（20名の1割増し）程度まで認めてくださるようお願いします。

（支障がある場合は事前にお知らせ願います。）

6. 時間割の柔軟な対応について

「基礎ゼミ」の授業時間は、月曜日の3～5講時及び木曜日の5講時に割り当てられています。

このうち5講時の授業については、次のような問題があります。

- ・月曜日5講時に授業を行う場合

学生にとって3，4講時が空き時間になってしまう。

- ・木曜日5講時に川内北キャンパス以外で授業を行う場合

4講時まで川内北キャンパスで授業を受講している学生は、キャンパスの移動に時間がかかる。

このことから、受講学生が決定した後に、学生の実状に応じて、定時刻の授業実施にこだわらない等、柔軟な対応をお願いします。

7. 基礎ゼミの実施に係る経費について

資料4『全学教育科目「基礎ゼミ」実施に係る経費の取り扱いについて』を参照してください。

申請手続き等については、3月末に授業関係資料と一緒に送付いたしますので、手続きの詳細についてはそちらをご参照願います。

なお、経費は事前に申請の上、審査を受けていただく必要があります。実際の申請は資料送付（3月末）後に行っていただくこととなりますが、基礎ゼミの計画を立てる際に、実施場所・移動手段など疑問が生じた場合は、事前に全学教育実施係までお問い合わせ願います。

4月にフィールドワークを実施する予定の場合は、3月中旬までにご相談ください。

【基礎ゼミ実施経費申請の原則事項】

- ・ 3週間前までに申請。（4月実施のものは除く）
- ・ 基礎ゼミ実施経費として申請可能なものは、主にフィールドワーク交通費のみ。
- ・ フィールドワークで博物館等を利用した場合、その入場料を支出する。
- ・ 宿泊費・食費等は学生の負担となる（教員の宿泊費等は旅費規程により支出）。
- ・ 申請可能なフィールドワークは1授業に付き1回のみ。
- ・ 授業期間中に実施する場合には、他の授業が行われる平日を避けて計画すること。
- ・ JR等の利用は片道200km以内の普通乗車券のみ（特急券は不可）。
- ・ 借上げバスの利用はJR等の利用が不可能な場合で、片道100km以内かつ参加者数（教員含む）が15名以上の場合に可能。
- ・ 授業で使用する実験器具等の物品や、材料費等は支出できない。

【基礎ゼミ実施経費支出の注意事項】

経費支出は請求書払いを原則としますが、JRや路線バス等で請求書払いが困難な場合は立替払いとなります。実状は、「JR等→立替払い、借上げバス→請求書払い」となることがほとんどです。どういう場合であっても、学生に立替えさせることは禁止しています。立替払いの場合、教員の旅費は別途支給されますので、学生分のみ請求し、後日、領収書またはレシートを提出することとなります。クレジットカードで利用した場合、その時の利用明細が必要となります。領収書が発行できない場合や、発行できるかが不明な場合は、事前に全学教育実施係までお問い合わせ願います。

なお、経費削減のため、前売券等を購入可能な場合には、ご利用くださいますようお願いいたします。

8. TAについて

基礎ゼミを含む全学教育科目のTA配置基準等が平成29年度より変更になりました。配置基準等の詳細及びTA採用の具体的な手続きについては、12月下旬頃にお知らせします。

9. 基礎ゼミシラバスの作成について

シラバスの原稿は、Webから入力していただくことになります。原稿作成の依頼は、11月下旬にメールで送付します。（複数の教員で授業を担当される場合は代表教員にのみ送付します。）締切は12月中旬となります。なお、平成29年度のシラバスは、東北

大学全学教育ホームページから閲覧することができますのでご参照願います。

【URL : http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku_annai.html】

10. 基礎ゼミ成果発表会

9月下旬(9/27 予定)に、「基礎ゼミ」で学んだ成果を学生が発表する会を計画しております。

11. 学生による授業評価アンケートについて

授業評価アンケートの用紙を、5月上旬に各担当教員に送付します(複数教員でご担当される場合は、代表者のみにお送りしますので、アンケート用紙を、授業評価を実施する教員へお渡しください)。

授業評価アンケートは、授業の最終日等、ご都合のよい日に実施してください。

「基礎ゼミ」問い合わせ先

【全般・クラス分け】

教育・学生支援部教務課 全学教育企画係

TEL : 7 9 5 - 7 5 7 8 FAX : 7 9 5 - 7 5 5 5

E-Mail : kyom-k@grp.tohoku.ac.jp 学内便 : 川B - 7

【基礎ゼミ経費・教室等】

教育・学生支援部教務課 全学教育実施係

TEL : 7 9 5 - 7 5 5 8 FAX : 7 9 5 - 7 5 5 5

E-Mail : kyom-j@grp.tohoku.ac.jp 学内便 : 川B - 7

授業担当の先生方へ

基礎ゼミについて

- (1)「基礎ゼミ」は大学教育への導入・イニシエーションを開設趣旨としており、1 クラス 20 人以下の文系理系の混合した新入生を対象にした授業です。課題は専門的なものではなく、学部横断的でかつ新入生が興味を持てるようなものを設定してください。
- (2)「基礎ゼミ」は、教員と学生及び学生相互間でフェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションを作ること、を1つの目標にしておりますので、担当の先生方の研究室でのゼミ、体験学習や実験、野外での調査や観察などをできるだけ取り入れることのできるような課題を設定していただければと思います。
- (3)一つの問題を種々の角度から横断的に考える態度を身につけさせることが「基礎ゼミ」の目標の一つとされています。その意味で一つの課題を複数の教員（2～3名）が担当することも可能です。
- (4)「基礎ゼミ」の単位は2単位です。授業の形態は、演習の他に、学生との話し合いによっては集中型、合宿型のものもあり得ると思われます。合宿の場合、一日6回分（12時間）相当と考え、1課題につき約2日半となります。学生が受講できるのは一人1課題です。

平成29年度
転換少人数科目・基礎ゼミ履修の手引き
(シラバス)

< 抜 粋 >

新入生のみなさんがこれから東北大学で履修することになる多くの授業のうち、まず初めに履修する「基礎ゼミ」は、他の授業科目と異なる特別な形態と意味を持っております。

みなさんの多くは、大学受験を意識して答えのはっきりしているものを正確に記憶し高速で読み出すという共通尺度で比較可能な知識の多さと知的操作の速さに関わる訓練を中心とした勉強をしてきたと思います。これにより重要な基礎学力が醸成されました。

これからの東北大学の学生としての生活は、未知のものへの挑戦を主としますので、まず、初めに高校との違いに気づいてほしいと思います。学習から研究へ、順応性から能動性へ、標準性から多様性への転換が必要なのです。

この授業では、教員からの知識の伝達を主とするということはありません。みなさん学生が積極的に授業に参加することが求められます。教員からの一方通行の授業ではないのです。学生は教員の出すテーマに従い、自分で工夫して調べ、教室で発表し、みんなで討論します。授業形態も様々で、実験、実習、フィールドワーク、見学を含む授業も多くあり、合宿で行うクラスもあります。授業が終わったあとで、「基礎ゼミ」で学んだ成果を公開発表する会も計画されています。「基礎ゼミ」とは、研究とは何か？大学とは何か？大学で学ぶとはどういうことか？といった問題について教員と学生が共に考える場でもあるのです。

この授業は、東北大学の各学部の教員だけではなく、総合大学である本学の特色を生かして全ての研究所、機構、センター、大学病院の教員が分担します。授業のテーマは、専門的なものだけではなく、入門的、普遍的、また学部横断的なものになっています。従って、**理系・文系はもちろん、入学した学部にもこだわらずに174の授業テーマの中から、知的興味をかき立てられるクラスを選んでください。**いずれか一つのクラスに所属することになります。

「基礎ゼミ」のクラスで、教員やいろいろな学部の学生と真剣に学び研究し、また楽しいコミュニケーションを図ってください。そして、協働して積極的に我々人類の課題に取り組む姿勢を培ってくださることを期待します。

「展開ゼミ」実施に当たっての留意事項

1. 開講の経緯

「学びの転換」を掲げる全学教育科目「基礎ゼミ」は、初年次学生に「大学での学び」を体験させ、学生の主体的な学習態度を育む授業科目として平成 14 年度の導入以来、大きな教育的成果を上げてきました。

毎年実施される「学生による授業評価」アンケートでの満足度等の評価はきわめて高く、2 年次学生との「学生との懇談会」では、1 年次後期にも基礎ゼミを開講し、受講の機会を増やしてほしいとの要望が継続的に出されてきました。他方、基礎ゼミ担当教員対象のアンケートにおいても、学生の積極的な学習態度や主体性を向上させるために「基礎ゼミ」に続く展開的、学際的なゼミを開講することを望む意見・要望が出されていました。

これらを踏まえ、1 セメスターに開講してきた全学教育科目「基礎ゼミ」に加えて、平成 25 年度から新たに「展開ゼミ」を開講しています。

2. 展開ゼミについて

「展開ゼミ」は、入学後半年間の「大学での学び」の経験をもとに、「基礎ゼミ」で育まれた主体的な学習姿勢をさらに高めようとするものであり、演習・実習・実験・フィールドワーク等のアクティブ・ラーニングを取り入れた 20 名程度の少人数教育の授業形態を言います。いわゆる教育手法（スタイル）のことを指しており、教育内容については授業担当者が決定することとしています。様々な科目類・科目群に渡って広く開講しています。

3. 受講者の決定、初回の授業について

他の全学教育科目と同様に、履修登録期間後に受講者が決定します。また、初回の授業も「平成 30 年度全学教育科目実施学年暦」に従って開始します。

4. 受講学生の上限について

目安は 20 名程度としていますが、授業内容に応じて授業担当教員が上限を決定し、

履修学生の決定についても担当教員の判断で行ってください。

5. TA について

展開ゼミを含む全学教育科目のTA配置基準等が平成29年度より変更になりました。
配置基準等の詳細及びTA採用の具体的な手続きについては、12月下旬頃にお知らせ
します。

6. 展開ゼミシラバスの作成について

シラバスの原稿は、Webから入力していただくことになります。原稿作成の依頼は、
1月上旬にメールで送付します。(複数の教員で授業を担当される場合は代表教員にのみ送付します。) 締切は1月下旬となります。なお、平成29年度のシラバスは、東北
大学全学教育ホームページから閲覧することができますのでご参照願います。

【URL : http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku_annai.html】

7. 学生による授業評価アンケートについて

「学生による授業評価」は、授業の最終日等を実施してください。後日、文書又は
E-Mailで、実施日時等を照会します。

8. その他

「展開ゼミ」はカレントトピックス科目群の枠組みに限定されず、教育内容によって、
基幹科目類や人文科学、社会科学群としても開講することができます。また、2セメス
ターに限定されず、3セメスター以降の開講も可能です。(国際共修ゼミを「展開ゼミ」
として開講する場合には、1セメスターに開講することもできます。)

展開ゼミの実施にかかる予算措置はないのですが、やむを得ない事情等がある場合は
下記問い合わせ先にご相談ください。

「展開ゼミ」問い合わせ先

教育・学生支援部教務課 全学教育企画係

TEL : 795-7578 FAX : 795-7555

E-Mail : kyom-k@grp.tohoku.ac.jp 学内便 : 川B-7

全学教育科目「基礎ゼミ」実施に係る経費の取り扱いについて

平成 17 年 12 月 26 日 学務審議会

平成 19 年 2 月 5 日 学務審議会一部改正

平成 24 年 12 月 3 日 学務審議会一部改正

平成 26 年 7 月 7 日 学務審議会一部改正

全学教育科目「基礎ゼミ」実施経費として、教育基盤経費の予算の範囲において、以下のとおり取扱うものとする。

1 フィールドワークに要する費用等

- (1) 受講学生が JR 線等を使用して移動する必要がある場合は、審査の上、1 授業につき 1 往復の普通乗車券購入費を支出する。この支出の条件は、原則として移動距離は片道 200Km までの、受講者が全員参加する場合とし、目的地まで複数の路線がある場合は最も経済的な経路とする。
なお、JR 線等の普通乗車券の料金と同程度の料金である場合には、定期運行の路線バスとすることができる。
- (2) 受講学生がマイクロバス等を使用して移動する必要がある場合は、1 授業につき 1 往復のマイクロバス等借上費用(運転手付)を支出する。この支出の条件は、原則として移動距離が片道 100Km までの JR 線等の利用が不可能な場合であり、かつ、引率教員を含めた参加者数が 15 名以上であることとする。
- (3) 上記(1)及び(2)以外の特急料金等(急行、座席指定、グリーン料金等)、施設使用経費、宿泊費等の費用は、受講学生の負担とする。
- (4) フィールドワークで博物館等を利用した場合、その入場料を支出する。
- (5) 引率教員は、教育基盤経費により、本学旅費規程に基づく出張の手続を行うものとする。
- (6) フィールドワーク等に参加する学生は、日本国際教育支援協会の学生教育研究災害傷害保険に加入していなければならない。
- (7) ティーチング・アシスタントがフィールドワークに参加する場合は、受講学生の取り扱いに準ずる。
- (8) 上記(1)または(2)の距離を超えて実施する必要がある場合は、あらかじめその理由を教務課へ提出するものとし、基礎ゼミ委員会において協議のうえ、その可否を決定する。

2 申請手続等

- (1) 交通費を申請する教員は、授業開始前に、フィールドワーク等を実施する理由・目的地・実施期日・参加予定人数を記載した申請書に、詳細日程予定表及び参加者名簿を添えて提出する。また、交通費の配分を受けた教員は、フィールドワーク等の実施後に報告書(A4 判 1 枚程度)を提出する。
- (2) 申請書及び報告書は、基礎ゼミ委員会委員長が受理する。なお、事務処理は、教務課が担当する。

2. 講 演

「配慮を要する学生の理解と対応」

学生相談・特別支援センター准教授	中島	正雄
同	講師	長友 周悟

平成29年度基礎ゼミ・展開ゼミFD

配慮を要する学生の理解と対応

高度教養教育・学生支援機構
臨床教育開発室
中島正雄

1

本日の内容

- 1 学生相談内容の近年の傾向
- 2 障害をもって入学してくる学生
- 3 学生対応で留意したいこと
- 4 基礎ゼミ・展開ゼミの意義
ー学生支援の立場からー

2

1 学生相談内容の近年の傾向

- ① 学生の**多様化**。学生相談の内容も多様化、
重度化、複雑化
- ② **対人関係の相談**の増加
- ③ **発達障害**やその傾向の強い学生の相談の
増加

3

1-① 多様な新入学生たち

- さまざまな個性やタイプ、経歴、民族・宗教的背景
の学生
ー いじめられ経験、長期の不登校体験等
- 発達障害等の障害を持つ学生
ー 発達障害、精神障害、聴覚障害、難病等
- 3.11をはじめ、様々な被災体験をもつ学生

多様な学生が入学してきます

4

1-② 近年増加している相談

- 対人関係の相談
- なかでも、**学生間での関係のこじれ・トラブル**
(暴言・威嚇・脅しのメール⇒ストーカー的の行
為や事件に発展するものも)
- 思春期・青年期(友人作りの練習期)におい
ての「友を選ぶこと」の重要性
- 「身近な関係」での**SNS**や**ライン**。適切なメッ
セージを送り、受け取る難しさ。

5

1-③ 近年増加している相談

- **発達障害**学生の相談
- 学業・研究、対人関係、進路の躓きを契機に
- 発達障害学生本人から、また**その関係者**(家
族、教職員、サークルや研究室の同級生・先
輩・後輩、恋人)**からの相談**、援助活動が近
年急増。

6

2 障害を有して入学してくる学生

- 学生相談・特別支援センターでは毎年、「合格手続き書類」中に、「障害がある方ならびに保護者の方へ」と題する、「入学直後からの支援希望」を尋ねる書類を同封
- 身体障害、感覚障害、発達障害その他の障害のある新生から、それぞれ数名ずつの支援希望が寄せられてくる
 - － アスペルガー症候群等 数名
 - － 過敏性腸症候群等の難病 数名
 - － 難聴、弱視など 数名
- 支援:ゼミの委員会やその他の委員会に連絡をとり、担当教員の方と協議、支援にあたることもある

7

2 障害のある学生への配慮

- 「障害者差別解消法」成立⇒「合理的配慮の提供」の義務化(国公立大)(私立大学も努力義務)
- ✓聴覚障害、視覚障害の学生
- ✓肢体不自由、難病の学生
- ✓発達障害、精神障害の学生

8

基礎ゼミ・展開ゼミ担当者として

- 既診断学生への「合理的配慮」の流れ～1, 2年次学生の場合
- 学生からの「配慮申請」に対して、学生の所属学部が特別支援室や全学教育教務の協力を得ながら合理的配慮の提供を検討し、実施。
- 実施にあたり、所属学部から担当教員への配慮依頼がなされる。その際、担当教員と協議をもつことがある。

9

2 配慮、支援の例

- 1, 2年次全学教育における配慮、支援
- 聴覚障害の学生
 - 継続的に学生相談・特別支援センターでフォロー
 - 座席の配慮, ノートテイクの支援
 - 教室でのマイク使用。補聴支援機器の導入
- 視覚障害の学生
 - 拡大資料の作成・提供

10

2 配慮、支援の例

- 1, 2年次全学教育における配慮、支援
- 発達障害(自閉症スペクトラム障害)の学生
 - ✓継続的に所属部局, 全学教育, 学生相談・特別支援センターでフォロー
 - ✓履修計画支援
 - ✓SLA等による学習支援(数学系科目、物理学の学習。情報基礎、自然科学総合実験レポート作成の手ほどき)
- 代替措置の検討と実施
 - ✓レポート提出締め切り日の延長措置がとられることも。
 - ✓(必要が生じたとき)別室受験
- 安心感⇒代替措置が不要になることもしばしば

11

主な発達障害

- 自閉症スペクトラム障害(ASD)
 - － 社会性やコミュニケーション能力といった社会生活全般に関わる基本的機能において難しさを抱える
- 注意欠如多動性障害(ADHD)
 - － 落ち着きがなく注意の持続や衝動コントロールに難しさを抱える
- 学習障害(LD)
 - － 「読み」「書き」「計算」など特定の領域で極端な困難を抱える 全般的知的発達に遅れはない

12

東北大学で出会う発達障害のある学生

- 自閉症スペクトラム障害と注意欠如多動性障害
- 多数を占めるのは、自閉症スペクトラム障害のなかでもほとんどが**アスペルガー症候群**
- 学習障害の学生

* 留学生のなかにも発達障害の学生が時折見受けられます。

13

発達障害の併存症

- 気分障害(うつ状態)
- 不安性障害(パニック障害)
- 適応障害(不登校)
- 摂食障害(拒食症、過食症)
- 妄想性障害(精神病症状)
- 解離障害(多重人格)

(出典) 広島大学岡本百合准教授の講演資料から

- 衝動的行動、対人トラブルなどの行動化
- 不登校、ひきこもり
- ハラスメントやストーカークの加害、被害も

14

発達障害は、感覚障害、運動障害と異なり
「適応上の躓きが生じてはじめて
障害が問題となる」障害

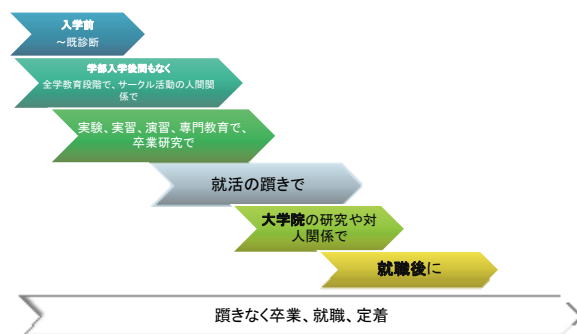
診断・告知の契機は躓き

躓きが生じなければ「個性・傾向」、「障害」として診断されるには至らない



15

発達障害のある学生の躓きの契機



16

アスペルガー症候群の学生の特徴と対応

- 言葉によるコミュニケーションは、一見よくとれているが、それに伴う**感情や状況の読み取り**は苦手
- **言葉をその通りに受け止めてしまう**
例) わからないところを飛ばして次にいってはいけません
この実験は時間をかけて確かめながらやりなさい
困ったらすぐに連絡しなさい

岡本准教授配布資料から

◆ **対応: 具体的で、明確、場合分けをした指示や説明をするようにする**

17

3 学生対応で留意したいこと

- 基礎ゼミ・展開ゼミ運営者として留意したいこと
 - ① **人間関係のトラブルの防止と対応**
 - ストーカー行為、事件化する前に
 - ② **気になる学生への対応**
 - 発達障害の学生
 - 精神科的症状を呈する学生
 - ③ **事故、ハラスメントの防止と対応**
 - 事故
 - ハラスメント

18

3-① 人間関係のトラブルの防止と対応

・ 模擬事例A

「基礎ゼミで、グループを組んだ男子学生が夜中に頻回のメール、電話、脅す内容に。怖くて授業に出られないばかりか、キャンパスに足を踏み入れられなくなり、試験が近づいてきた。他の科目も出席できなくなり、心療内科へいく事態に。医師に学生相談所を勧められ来談」

19

3-① 人間関係のトラブルの防止と対応

・ 模擬事例B

「基礎ゼミのグループの発表の準備を学生のアパートで行うことに。一人が休み、男子学生Aと二人きりになったが、そこで乱暴され.....」

- ・ 場は、「合宿の場で」なども起こりうる

20

3-① 人間関係のトラブルの防止と対応

➤ 対応：学生相談所カウンセラーを交え、担当教員ならびに学務審議会委員とで対応を協議→学務審議会委員長→外国語等の他の委員会とも協議

➤ 防止：

- － 不必要な個人情報 は 共有させない
- － グループ学習の人数(二人きり×)、場所(アパート×、学内や公共的空間○)について **注意喚起**しておく

21

3-② 気になる学生への対応

➤ 発達障害であるかもしれない学生、自傷行為、緘黙など、気になる行動を示す学生

➤ 対応の観点：

- － 見守るか つか
- － 見守るとしたら、どのように見守るか(どの範囲の関係者まで情報共有するか)
- － つかぐとしたら、学生相談・特別支援センターや保健管理センターへどのようにつかぐか
- － 学部や関係する他の機関との連携はどうするか

22

3-② 気になる学生への対応

➤ 震災から小さからぬ影響を受けている学生

・ PTSDハイリスク群の在校生

- － 平成24年度 463名(6.0%)
- － 平成25年度 494名(4.9%)
- － 平成26年度 415名(4.1%)
- － 平成27年度 346名(3.5%)
- － 平成28年度 393名(3.9%)

・ 入学後の学生生活において、適応の苦しみが生じうる

➤ 対応：個別に連絡を取り、学生相談所利用を呼びかける働きかけを実施

23

3-② 気になる学生への対応

➤ セクシャル・マイノリティの学生

- ・ 呼称について男女区別せず。統一呼称「さん」付けにするなど。
- ・ 合宿の場でのトイレや洗面入浴等の配慮。

24

3-③ 事故、ハラスメントの防止と対応

➤ 事故

- －フィールドワークや施設等見学に際し、原付で移動中に事故発生

➤ 対応：学務審議会への連絡その他

➤ 防止：公的交通機関の利用を指示する等

25

3-③ 事故、ハラスメントの防止と対応

➤ ハラスメント

- －合宿におけるセクハラ
- －学生間のセクハラ行為や飲酒の強要を**見逃す**
- －学生との私的な付き合い：セメスター終了後も、**SNSなどでのやりとり**(私的交流)を教員側が続けようとするなど。

➤ 対応：学生相談所やハラスメント相談窓口の活用。全学教育の各委員会や、全学教育教務、学部の学生相談・特別支援連絡会議委員との連携、協議が必要な事態も

➤ 防止：運営者としての役割行動をとる。授業担当者としての関係と私的関係を峻別する。

26

4 基礎ゼミ・展開ゼミの意義 －学生支援の立場から－

- ・「教養教育」「専門教育」「正課外教育」のスタート地点にある学生に、「学問・研究の旅」に、また学生支援の立場からは「**自分づくりの旅**」に誘い促す意義を持つのではないか。
- ・安全な「自分づくりの旅」などないかもしれないが、**安全配慮**をした上での**学生の特徴に程よく合わせた**皆さまの関わりは、学生の「自分作りの旅」を程よくサポートするのではないだろうか。

27

どうぞご遠慮なくご連絡ください

● 学生相談・特別支援センター

- ・ 学生相談所 電話：795-7833
gakuso@ihe.tohoku.ac.jp
- ・ 特別支援室 電話：795-7696
t-sien@ihe.tohoku.ac.jp



● ハラスメント全学学生相談窓口

- ・ 電話：795-7812
- ・ 電子メール：gakuso@ihe.tohoku.ac.jp



28

3. 基礎ゼミ実践事例の報告

- ① 「黄砂を抑制：最強の砂漠緑化土を作る」～実験・実習型ゼミ実践事例

環境科学研究科教授 高橋 弘

- ② 「美術を見る・美術について話す」

～フィールドワーク型ゼミ実践事例

文学部・文学研究科教授 芳賀 京子

- ③ 「近代日本の歴史と思想 -国際共修ゼミ-」～演習型ゼミ実践事例

文学部・文学研究科助教 森川 多聞

基礎ゼミの事例報告

平成29年度の課題

黄砂を抑制：最強の砂漠緑化土を作る

環境科学研究科 高橋 弘

シラバス

黄砂による環境問題を解決するために、砂漠の緑化が行われていることを学ぶとともに、より強力な砂漠の緑化土を自らの手で工夫して作成し、その土壌物理性能を計測することにより、計測方法を理解することを目的とする。本基礎ゼミでは、砂漠の砂の代わりに珪砂を使い、この珪砂を如何に保水力が高く、透水性も確保した緑化土に変えていくかを各グループで考えてもらい、実際に緑化土を作ってもらい。さらに、作成した緑化土の土壌物理性能を計測し、その測定方法を習得するとともに、砂漠の緑化により黄砂が抑制されるメカニズムを理解する。

緑化土に必要な土壌物理性能の項目を理解し、その測定方法を習得するとともに、砂漠の緑化により黄砂が抑制されるメカニズムを理解する。

スケジュール

- 6月5日 概要説明、緑化土作成のためのグルーピング(川北)
- 6月12日 緑化土作成のためのグループディスカッション(川北)
(どのような材料を使うか、どのように作成するか)
- 6月19日 緑化土の作成→保水性試験→透水性試験の
供試体作成(青葉山)13:30から
(時間の許す限り多くの緑化材の保水性を確認し、優秀な緑化材で透水試験用の供試体を作製する)
- 6月26日 透水性試験→保水性試験→透水性試験供試体作成
(青葉山)
- 7月3日 透水性試験→保水性試験→透水性試験供試体作成
(青葉山)
- 7月10日 透水性試験・発表用パワーポイントの作成(青葉山)
- 7月24日 成果の発表・まとめ(青葉山)

6月5日 概要説明、緑化土作成のためのグルーピング(川北)

- アイスブレイキング(自己紹介:出身校や趣味など)
- 概要説明
 - ・黄砂とは
 - ・砂漠化とは
 - ・目的 ▶
 - ・緑化土製造の一例 ▶
 - ・緑化工事事例の紹介 ▶
- グルーピング ▶

黄砂の原因の一つに砂漠化が挙げられています。そこで、黄砂を抑制するために、砂漠の緑化が進められています。一般に植樹して砂漠の緑化が進めされていますが、この基礎ゼミでは、植物の生育に必要な「土」の観点から砂漠の緑化について考えて行きましょう。

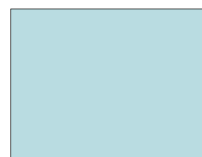
ここでは、保水性と通気性(透水性)について考えます。砂は通気性には優れていますが、保水力はほとんどありません。逆に粘土は保水力は高いですが、通気性はほとんどありません。この2つの性能は一般に相反関係にあります。

砂漠の砂を改良し、通気性も優れ保水力も高い人工緑化土を作成するのが本基礎ゼミの目的です。

緑化土製造の一例



建設汚泥投入



材料を添加



天日乾燥状況



製品



製品

緑化土の性能目標値と試験結果

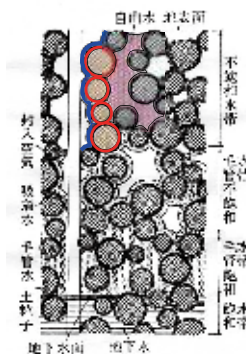
必要性

- ① 保水性→有効水分保持量
- ② 軽量性→湿潤時重量
- ③ 通気性→三相分布(固相、液相、気相の分布)、透水係数
- ④ 保肥力→陽イオン交換容量

性能目標値と試験結果

	単位	基準	目標値	測定値	概要
有効水分保持量	[ℓ/m³]	(独)都市再生機構 (財)都市緑化技術開発機構	100以上	261	pF1.5～3.8の範囲
湿潤時比重	[-]	(財)都市緑化技術開発機構	1.0以下	1.27	pF1.5の状況で測定
三相分布	[%]	(社)日本道路協会 農山漁村文化協会	固相率30以下 気相率25以上	23.9 16.2	pF1.5の状況で測定
透水係数	[cm/sec]	(財)都市緑化技術開発機構 (社)日本道路協会	10 ⁻³ 以上	1.8 × 10 ⁻³	
陽イオン交換容量	[cmol(+)/kg]	(社)日本道路協会 (独)都市再生機構	6以上	17.7	

pFとは？

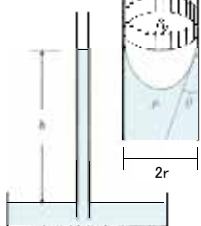


土の中の水が土の毛管力によって引き付けられている強さの程度を表す値。

十分に水を含んでいる土の場合、pF値は低く、植物の根が水を吸い易いことを意味する。逆に土が乾燥しているとpF値が高くなり、水を吸い上げるには強い力が必要になる。

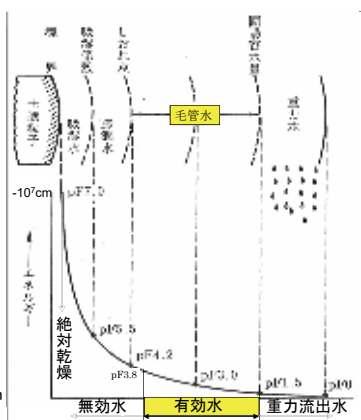
pF概念図

毛管現象



$$pF = \log_{10} h$$

$$pF = 1.5 \sim 3.8 \rightarrow 2r = 0.48 \sim 94.8 \mu m$$



人工●●の利用による砂丘地土壌の改良

	有効水分保持量 pF1.8～3.0[ℓ/m³]
鳥取砂丘砂	52(100)
粒状●● 2[%]混合砂	55(106)
粉状●● 2[%]混合砂	66(127)

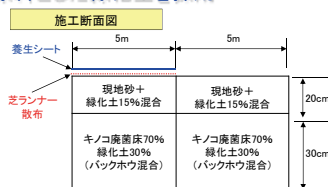
有効水分量が増加する結果、砂丘地灌漑農業における一回当たりの灌漑水量と間断日数が増加し、灌漑管理の少量化が期待される。



海岸飛砂防止施工事例

建設汚泥および浄水発生土を原料とした緑化土を採用

工事名：新潟西海岸緑化試験作業
発注者：北陸地方整備局
新潟港湾・空港整備事務所
工事概要：新潟港（西地区）航路埋没埋没工事から発生する浚渫土砂と建設汚泥を改良し、海岸緑化に使用するための試験作業。海岸の砂浜に以下の断面にて緑化土を混合し、経年の植生状況を観察するとともに、飛砂防止効果についても検証を行う。



施工完了



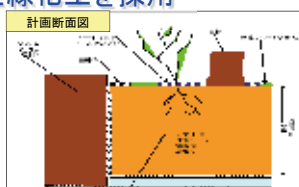
11ヵ月後 植生状況



屋上緑化施工事例

浄水発生土を原料とした緑化土を採用

工事名：大分市役所本庁舎屋上緑化工事
発注者：大分市
工事場所：大分県大分市荷揚町2-31
工事概要：大分市役所本庁舎屋上緑化工事にて人工軽量緑化土を利用した事例。本工事は屋上緑化コンベとして、参加業者ごとに緑化スペースを分けし、植生状況等について評価を行うものであり、保水性や軽量性、保肥性等の品質について高い評価を受ける。



1ヵ月後 植生状況



17ヵ月後 植生状況



屋上緑化施工事例 浄水発生土を原料とした緑化土を採用

工事名 : 広島市役所本庁舎屋上緑化工事
発注者 : 広島市役所
工事場所 : 広島県広島市中区国泰寺1-6-34
工事概要 : 広島市役所本庁舎屋上緑化工事にて人工軽量緑化土を利用した事例。本工程では土壌厚さを変化させることにより、低木等の植生環境を整備した。緑化土の持つ軽量性を生かした利用方法。



2ヵ月後植生状況



4ヵ月後 植生状況



施工事例 屋上緑化施工事例浄水発生土を原料とした緑化土を採用

現場名 : 茂庭浄水場屋上緑化工事
発注者 : 仙台市水道局
工事場所 : 宮城県仙台市太白区茂庭字上の原山128
工事概要 : 茂庭浄水場屋上緑化工事にて人工軽量緑化土を利用した事例。浄水場から発生する浄水発生土を緑化土に改良、●●と混合することで更なる通気性向上を目指した。

A区画→緑化土90% + ●●10%
B区画→緑化土80% + ●●20%
C区画→緑化土70% + ●●30%

A区画1ヵ月後



B区画1ヵ月後



C区画1ヵ月後



受講生数および所属 学部等

5学部・10学科
22名

経済学部 学科未決定
理学部 地球科学系
理学部 地球科学系
医学部 保健学科 放射線技術科学専攻
医学部 保健学科 検査技術科学専攻
医学部 医学科
医学部 医学科
工学部 機械知能・航空工学科
工学部 機械知能・航空工学科
工学部 機械知能・航空工学科
工学部 機械知能・航空工学科
工学部 電気情報理工学科
工学部 電気情報理工学科
工学部 化学・バイオ工学科
工学部 材料科学総合学科
工学部 建築・社会環境工学科
工学部 建築・社会環境工学科
農学部 学科未決定
農学部 学科未決定
農学部 学科未決定
農学部 学科未決定
農学部 学科未決定

グループ分けの結果

1	工学部 機械知能・航空工学科
1	工学部 建築・社会環境工学科
1	農学部 学科未決定
1	医学部 保健学科 放射線技術科学専攻
2	工学部 機械知能・航空工学科
2	理学部 地球科学系
2	医学部 医学科
2	農学部 学科未決定
3	医学部 保健学科 検査技術科学専攻
3	工学部 化学・バイオ工学科
3	工学部 材料科学総合学科
3	工学部 電気情報理工学科
4	農学部 学科未決定
4	経済学部 学科未決定
4	医学部 医学科
5	工学部 機械知能・航空工学科
5	理学部 地球科学系
5	工学部 電気情報理工学科
5	農学部 学科未決定
6	工学部 建築・社会環境工学科
6	農学部 学科未決定
6	工学部 機械知能・航空工学科

6月12日 緑化土作成のためのグループディス カッション(川北)

グループごとに約40～60分ディスカッション

- ・どのような材料を使うか
- ・どのように作成するか

実際に使用する珪砂のサンプルを提示
(イメージを持たせるため)

意見がまとまったら、グループと担当教員・TAが
面談。翌週までに各グループで希望する材料を
TAが揃える。

6月19日 緑化土の作成→保水性試験→透水性 試験供試体作成(青葉山)

6月26日 透水性試験→保水性試験→透水性試 験供試体作成(青葉山)

7月3日 透水性試験→保水性試験→透水性試 験供試体作成(青葉山)

各グループに珪砂を配布。各グループで選んだ材料を
切ったり破碎したりして珪砂と混合
時間の許す限り多くの緑化材の保水性を確認し、優秀な
緑化材で透水試験用の供試体を作製



氏名			日付		
追加物					
試験位置	追加量も時間変化させる				
追加量①	クイック②				
追加物①	③(g)				
追加物②	④(g)				
追加物③	⑤(g)				
追加物④	⑥(g)				
合計⑦	クイックのみの増量は10%増量が必要である ことを考慮して、足りない分を水の増量とする				
⑧					
⑨					
⑩					
⑪					
⑫					
⑬					
⑭					
⑮					
⑯					
⑰					
⑱					
⑲					
⑳					
㉑					
㉒					
㉓					
㉔					
㉕					
㉖					
㉗					
㉘					
㉙					
㉚					
㉛					
㉜					
㉝					
㉞					
㉟					
㊱					
㊲					
㊳					
㊴					
㊵					
㊶					
㊷					
㊸					
㊹					
㊺					
㊻					
㊼					
㊽					
㊾					
㊿					

7月10日 透水性試験・発表用パワーポイントの作成(青葉山)

発表用のパワーポイントの作成
TAが指導

7月24日 成果の発表・まとめ(青葉山)

各グループごとにパワーポイントを用いて成果・感想などを発表。

各グループ15分程度

各グループの代表者が全て発表するのではなく、全員で分担して発表するように指示

実践事例報告②

「美術を見る、美術について話す」

文学研究科 芳賀 京子

学生の所属学部

- 文学部 9名
- 経済学部 4名
- 工学部 4名
- 教育学部 1名
- 理学部 1名
- 農学部 1名
- 医学部 1名
- 計 21名

シラバス

- 目的と概要
授業では、イメージを言語化して、ほかの人に伝える練習を繰り返しおこないます。各人が美術の面白さを他の人に伝えられるようになることを目的とします。
- 学習の到達目標
美術について、他の人にその魅力を伝えられる。
他の人と美術を見る楽しみを共有する。

方針

1. 美術作品を見て、レポートを書く
(美術館・博物館・展覧会にとにかく行く)
2. 視覚イメージや、そこから感じ取った抽象的感覚を言語化する
 1. 展覧会の絵
 2. 自分の好きな絵
 3. 未知の作品
3. 聴衆のことを考えながら口頭発表する
(聴衆から発表者へのフィードバック)

予定表

- 4月15日(土) 宮城県美術館「ルノワール展」見学
13:00 チケット売り場前集合(特別展観覧料、鉛筆)
課題:好きな作品1点を選び、その作品について記述しよう。
- 4月17日(月) 予定表の確認、自己紹介
- 4月24日(月) 「ルノワール展」発表①
課題:自分の好きな作品を1点選び、その作品の魅力を書いてみよう。(参考:『増補新装 カラー版西洋美術史』美術出版社、2002年)
- 4月27日(木) 「ルノワール展」発表②

- 5月1日(月) いろいろな時代の美術作品の魅力を伝える①
- 5月7日(日) 東北歴史博物館「ラスコー展」見学
課題:ラスコー展についての文章を書いてみよう
- 5月8日(木) いろいろな時代の美術作品の魅力を伝える②
- 5月11日(木) いろいろな時代の美術作品の魅力を伝える③
- 5月15日(月) 今の美術、好き／嫌い
(作品を褒めてみよう／けなしてみよう)
課題:選んだ美術作品・作家について調べてこよう
- 5月22日(木) 中間発表
- 5月29日(月)、6月1日(木)、6月8日(木)
成果発表①～③
ひとり10分(発表5分、質疑応答5分)

①展覧会で見た作品について話そう

共通の経験に基づいて話す
気軽に質問する雰囲気づくり



氏名	学号
本日は展覧会に参加いただきありがとうございます。本日の展覧会について、感想や疑問などを記入してください。	
氏名	
学号	
感想	
疑問	

発表

- 何が描かれているのか
- 優れているのはどこか
- 作品の感想

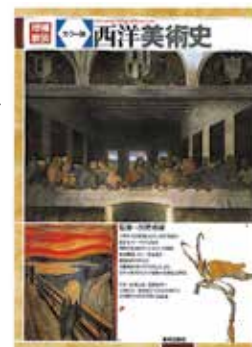


簡単な質問を繰り返す（モデルの向き、モデルの視線、作者の視点、背景、服装など）

→質問するポイントや
見るポイントを把握させる

②自分の好きな作品について話そう

自分が興味を持っている作品について調べ、説明する
作品の面白い部分に注目し、質問する



聞き手の学生に
たくさん質問をさせる
→聴衆の関心のありか
を考えながら発表
することをめざす

知識の結合

- 一般常識
聖書の四人の福音書記者
- 高校の世界史
1517年「ルターの95カ条の論題」
- 時事的な話題
2017年
宗教改革500周年

デューラー 《4人の使徒》
1526年 油彩、板
ミュンヘン、アルテピナコテーク



文学とイメージの往還

- シェークスピア『ハムレット』
- ジョン・エヴァレット・ミレイ《オフィーリア》
- 夏目漱石『草枕』



ジョン・エヴァレット・ミレイ《オフィーリア》1852年 キャンヴァス、油彩
76.2×111.8cm ロンドン、テート・ギャラリー

遠足：ラスコー展

5月7日（日）東北歴史博物館
（交通費・観覧料支給）



学芸員さんから、展覧会準備
についてお話を聞く

展示方法について考える

人類にとって美術とは何かを
考える

③現代アートを語ろう

関心がない作品について調べ、
聴衆が興味をもつように話す

ペアで作品を褒める／けなす

- | | |
|--|---|
| • マーク・ロスコ《無題》
シーグラム壁画、DIC川村
記念美術館 | • ドナルド・ジャッド
《無題》
広島市現代美術館 |
| • イヴ・クライン
《人体測定ANT-66》
いわき市立美術館 | • ルチオ・フォンタナ
《空間概念》
豊田市美術館 |
| • アンディ・ウォーホル
《緑のコカ・コーラ瓶》、
ホイットニー美術館 | • ブリジット・ライリー《大
滝3》ロンドン、プリ
ティッシュ・カウンスル |
| • ジョセフ・コーネル
《無題（オウムと蝶の住
まい）》DIC川村記念美術
館 | • ヘンリー・ダーガー『非現
実の王国で』より
キヨコ・ラーナー・コレク
ション |

- | | |
|---|--|
| • ロバート・スミッソン
《スパイラル・ジェッ
ティー》ユタ州グレイ
トソルト湖 | • クリスト&ジャンヌ・ク
ロード
《梱包された帝国議会議
事堂》ベルリン |
| • サイ・トゥオンブリー
《レダと白鳥》
ニューヨーク近代美術
館 | • ジャン=ミッシェル・バス
キア《ペリシテ人たち》
イルマ&ノーマン・ブレ
イマン・コレクション |
| • アンドレアス・セレー
ノ
《ビス・クライスト》 | • ダミアン・ハースト
《母と子、分断されて》
オスロ、アストルップ・
ファーンリ近代美術館 |
| • 艾未未《コカ・コーラ
の壺》 | • 隋建国《襷の重なり - 円
盤投げ》 |

... など

反省点（2011年度との比較）

- クォーター制
 - 学生が課題に十分な時間がかけられない。
（図書館に行かず、スマホで検索するだけに）
 - 教員が課題の添削に十分な時間がかけられない。
 - 期間中に観覧できる展覧会の数が少なくなる。
 - 美術関係のニュースなど、短期間ではあまりない。
- TAなし
 - 学生発表のモデルを示すことができない。
 - 身近な相談相手がいない。

第11回「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップ
実践事例の報告③
「近代日本の歴史と思想—国際共修ゼミ」

2017年11月7日、於東北大学川内南キャンパスM棟
文学研究科助教 森川多聞

自己紹介

- ・専門：日本近現代思想史(国民国家、学術知、近代的自我)
- ・現在所属：文学研究科コンピュータ室助教
- ・経歴：東北大学文学研究科日本思想史研究室卒
東明大学専任講師(韓国、日本語と日本文化論)
- ・事例報告講義：「近代日本の歴史と思想—国際共修ゼミ」
2013年度より(基礎ゼミ、展開ゼミとしては2015年度より)

シラバスの概要

- ・目的
 - 1) 近代日本の歴史・文化的事象を多角的な視点から捉える。
 - 2) 多様な文化間におけるコミュニケーションのあり方を理解する。
- ・到達目標
 - 1) 日本の歴史や文化、言語を多様な視点から捉えられるようになること。
 - 2) 異なる歴史的文化的背景を持つもの同士が、互いの違いを客観的に認知し、配慮しながら交流することが出来るようになること。

※「歴史」を素材として、少しでも「考える視野」を広げて貰うこと

実施授業の全体の流れ

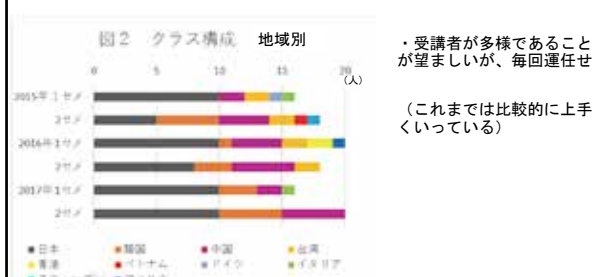
- ・授業内容
 - 1) 19世紀以降の日本の文化、思想を通史的、部分的に取り扱う。
 - 2) 当初の数回にわたって文化史研究に関する方法論を講義し、そののちに受講者の発表(一人20分程度)を行う。
 - 3) 受講者は、割り当てられた年代の、近代日本と関連する歴史的事件を紹介し、これを受講者同士(4人程度の小グループ)で議論する。また発表内容をふまえた講義も行う。
- ・講義のすすめ方
 - 1) 当初数回の講義：5回程度(講義+学生同士の議論)
 - 2) 学生の発表：10回程度(前回のまとめ+学生の発表、議論×2)

※学生による活動を重視(プレゼンテーション作成、議論への参加)

受講生について①



受講生について②



国際共修ゼミについて

- 利点
 - ・議論の場を設けるだけで、留学生の目的(日本人学生の考えを知りたい、交流したい)と日本人学生の目的(留学生と交流したい)が充たされる
 - ・そもそも文化・知識的な違いが明確なため、「歴史」の多様性を前提とした講義内容を受け入れやすい
 - ・留学生が議論を積極的に進めてくれる
- 欠点
 - ・留学生の受け入れ時期がずれることがあり、クラス編成が遅れることがある
 - ・日本の歴史について全く知らない学生が来るため、補足説明が必要となる

主体性を育むために工夫した点①

- 講義に関して
 - 1) 一見自明な言葉(「歴史」「日本」等)の意味を再考する
→ 知識注入型の教育では取り扱えない範囲を
 - 2) 座席表はこちらで作成し、2回毎に変更
→ 学生のモチベーション維持
 - 3) 学生からの質問へ、できるだけ対応する(ミニットペーパー、議論中の疑問点)
→ 学生のモチベーション維持
 - 4) 発表資料を予め提出させ、それに合わせて当日の講義準備を行う
→ 学生同士の議論を活発化させる

主体性を育むために工夫した点②

- 予め学生に与える指示について
 - 1) 本講義を受ける上での考え方・態度を強調
 - ・多文化共生を前提(=差異があることが前提で共生ということ)
 - ・学生同士の議論を行う際、あくまで「個人」の意見であることを相互に意識するよう注意
 → ステレオタイプの「国」イメージを相対化させ、既存知識の再構築を促す
→ おさなりの国際的政治問題に向かわせないため
 - 2) 発表に関しては、フォーマットをこちらで準備し、作成していく際に必要な項目・内容を明示(過去の発表事例なども紹介)
→ 発表内容、議論のレベルを維持するため

発表内容紹介①—概要

発表題目	講義の主なトピック
3.1独立運動	ナショナリズム、宗教
霧社事件	「文明」と「野蛮」
神風連の乱	近代化論、身分制の変遷
琉球処分	国民国家、「中央」と「周辺」
五四運動	政治運動、メディア論
売春又公娼に関する法令	法律と近代化、性、宗教
朝鮮語研究会	国民国家、「共通語」
民本主義論	民主主義、天皇論
滝川事件	学問と政治
癩髪と断髪	近代化論、習俗の変遷
オッペケペー節の流行	メディアの変遷と近代化
香港海員ストライキ	植民地政策、国民国家論
レッドパージ	冷戦体制

- 全体的には時代、内容ともに広範
(幕末維新期から太平洋戦争後まで、文化習俗、教育、法律、政治等々)

表1 発表内容の抜粋(2015年度～2017年度より)

授業内容紹介②—具体例

• 鑑足に関する台湾人学生の発表
「美意識」や「性差」に関する過激な疑問
→ 現代的・一般的な価値に関する議論へ

授業内容紹介③—具体例

• 「日韓併合」に関する日本人学生による発表
→ 歴史叙述の陥穽
→ 理解の背景にある認識について議論

4. ワークショップ ―学生の主体性を育む授業方法―

A～C グループの3グループに分かれ、事例報告者を交えてグループ作業を行った。

《 ワークショップ ―学生の主体性を育む授業方法― 》

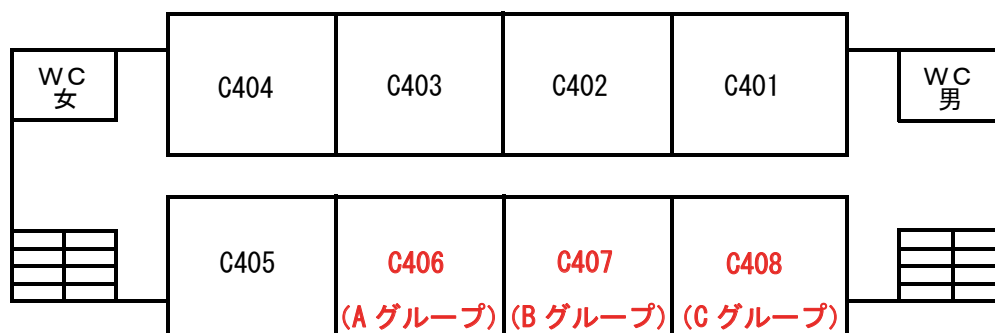
- ◇グループ作業の最初に、参加者の中から「司会」「意見発表者」「記録者」を決める。
- ◇講師の実践事例報告に対する質疑応答・補足説明の時間を設け、フリーディスカッション形式で、受講学生の主体性を育む上で特に工夫した点などを確認する。
- ◇TA、ゼミ生が参加するグループでは、TA やゼミ生からも授業改善のための意見を出してもらう。
- ◇「記録者」はグループ作業での検討経過等を記録用紙に記述する。
- ◇参加者全員の討議により、ゼミにおいて「学生の主体性を育む授業方法」の「良い手法 3 例」「改善を要する手法 3 例」を「司会」がまとめる。
- ◇作業成果としてまとめた「良い手法 3 例」「改善を要する手法 3 例」を「意見発表者」が全体会において発表する。
- ◇作成した記録用紙及び発表用 PowerPoint は、後日報告書として発表するため、ワークショップ会場の USB メモリに保存する。記録者は、記録者の欄に必ず氏名を記入すること。

[A グループ]：(講師) 高橋 弘	(世話役) 小林秀昭 林 雅子
[B グループ]：(講師) 芳賀 京子	(世話役) 藤本敏彦 高橋慎雄
[C グループ]：(講師) 森川 多聞	(世話役) 佐藤智子 島崎 薫

◎進行予定表（15：10～17：00）

ステップ	消費時間	時刻
I グループ作業	80 分	15：10～16：30
1 イントロダクション・自己紹介・役割決定 (記録用紙記入開始)	10 分	15：10～15：20
2 実践事例報告をめぐる質疑応答・補足説明	15 分	15：20～15：35
3 討議	40 分	15：35～16：15
4 まとめ（発表用 PowerPoint 作成）	15 分	16：15～16：30
会場移動：16：30～16：35		
II 全体発表・質疑	25 分	16：35～17：00
各グループ発表	5 分×3 グループ	
各グループ質疑	3 分×3 グループ	

川内北キャンパス配置図



C棟4階

5. 発表・質疑（各グループの成果発表）

第 11 回 東北大学「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップ 記録用紙

A グループ	記録者名：伊藤 亮
テーマの選び方は？ 高橋先生のテーマは研究室のテーマとして既にあった。 その中から週二コマで学生が実施できるものを選択。 大学一年生にどのように教えるのか？ 原理は簡単に説明し、ボタンを押せば結果が出るような仕組み、ルールを敷いてあげて乗せてあげる。 どこまでルールを準備するか？ これまでの事例を挙げるが、学生の自由な発想は妨げないように気をつけた。 学生の主体性に任せた実験計画、いくつかの選択肢(学生があげた)から現実性のありそうなものを選択。 実習と座学の割合は？ 初回：座学、二回目：グループディスカッション、以降：実験、最後：発表 前回(15 年前)は文献検索・発表を行った。 イマイチだったため、今回は実験に。 安全・時間等の問題でフィットするテーマだった。 評価・学生へのフィードバックはどのように行ったか？ 発言・取り組みへの積極性を評価。毎週 TA をともに見ていることを伝える。 発表の上手さで評価。 4 人組で進めた場合、リーダーが必要。リーダーの決め方は？ 自然と学生同士で上手く分担していた。 人数が多すぎると遊ぶ学生が出る。人数が少ないとグループ数が多くなり対応が大変。 バランスが重要。大体 3-4 人。 測定実験を進める上で、測定原理に疑問を持つ学生はいなかったのか？ 測定原理はあくまで最低限教えた。 実験結果が予想外だったとき、フィードバックが必要ではないか？ 発表後にその点を考察する時間があってもよかった。今回は、測定に時間がかかるため、余裕がなかった。あったほうがよかった。(改善点)途中で立ち止まって結果を考察・検討する時間があっても良かった。	

学生の主体性に任せた実験計画では実現できない提案もあったのではないかな？
TA (1 人, 20 時間以内) と相談の上、できないものはいくつかあった。

実験をするのであれば、時間は一コマでは足りない。
特に移動時間や昼食時間には考慮した。

授業内で完遂できたかな？
なるべく時間内に終わるように心がけ、時間外ではやらせなかった。
もしずれ込んだ場合は TA が対応した。

評価基準があいまいになりがちではないかな？特に学生視点から
基本的にはいい点数。出席状況などを考慮した。
実験への主体性や積極性をどのように評価するか？
評価基準を学生に伝えるべきかどうか？
あまり明確に伝えないほうが良いかもしれない。
課題の基準を明確にした、より詳細に明示するとレポートの出来がよくなった。

基礎ゼミにかかる経費は？
経費は交通費しか出ない。
実験経費や外部講師の謝金・交通費は自腹。
(改善点) 実験経費こそ出すべき。

Aグループ 発表用パワーポイント用紙

発表者名 永井 大樹

良い手法

- 受講者のレベルを勘案したガイドラインの作成
(ルールを敷いた実験にすることも必要)
- 適切なグループ分けとリーダーの選出
(実験系では3-4人が適当)
- 結果に対する考察の時間をしっかりと取る
- ✓ 主体性をはぐくむ
- ✓ 受講生が知りたいと思うことを提供する

改善を要する手法

- 結果に対する考察する時間をふやす
- 中間評価(実験の考察)を行う
- 時間の設定を考える
(実験は2コマ連続が不可欠と考える。時間内に終わることを心がける)
- 成績評価の基準があいまいな点を考える
(基準を事前に伝えた方がよいという意見もあった)
- ✓ 適切な受講者の人数が必要
(TAの負担や全員参加を望んで)
- ✓ 実験/外部講師招聘に関する経費を考慮する

第 11 回 東北大学「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップ 記録用紙

Bグループ	記録者名：小池 武志
苦労した点は？ 学生の名前を覚えるのが苦手→ネームプレートを作成し、ゼミ中に表示。	
班分けするのと個人ベースにする是非は？ 班分けすると参加しない学生が出てくる。個人ベースだとそれがない。個人が発言できるような環境を作るように心がけた。お互いをより知ることによりコミュニケーションがとりやすくなる。	
成果物はレポートと発表か？ 自分の興味がないものでも調べることによって、他人に説明したり語ることができるようになることを目指す。客観的な視点からあらゆる事項に対してしゃべれるようになる。	
リベラルアーツの手法をご存知ですか？ 知らない。	
成績評価方法は？ 学生のレポートや発表方法を細かく見ることで自ずから差が出てくる。自分の感情的なものを押し付けてもダメ。客観的に、論理的に自分の感じたところを表現する。	
Aが多くなる傾向にあるが、評価方法を事前に教えるべきか？ 目標、基準となるべき例を生徒に示すのは必要だと思った。評価を気にしすぎると、ゼミの本来の主体性を育む目的を損なわないか？農学部は1，2年生の成績（GPA）が進学に重要（基礎ゼミの成績も考慮される）。良い成績がとれる基礎ゼミを選択する傾向が生まれてしまう。医学部はそう心配はない。	
成績は可否ではダメか？ 4段階評価でないとダメ。 学生を弁護士の立場と検察の立場をとらせて議論させるのが新鮮だった。	
20人も学生がいるとレポートを読んだりするのが大変ではないか？ 大変。TAが必要。セメスター制であるとTAと学生の親近感がでる。基礎ゼミにかかる費用は大幅に削減されている。	
このゼミの発展版（2年生向け）は？ あまり深めすぎると全学的な意味合いが薄れる気がする。発展ゼミでは、発表のレベルが上がっていくのでは？ 議論を促す工夫は？ 2人だけでは議論が進まない。スマホを見ている学生が多くなってきている。教員が促すように努力している。	

ゼミの構成員は？ 男女半々。文学9、農学1、数学1、経済、医学、工学他、学部はさまざま。

経費関連： 交通費等の経費の事務とのやり取りは大変。シラバスに予め自己負担として掛る経費を明記した。

レポート作成に関して学生支援センターの利用は？ しなかった。理系・文系の別はなく、ぜひ利用して欲しい。

特別な配慮が必要な学生はいたか？ 特にいなかった。一般の講義では、アスペルガー的な学生がいたことはある。全学教育では、発表ができない、字が読めない学生からの事前の申し出があった。公平に成績がつけられるのか？配慮するのにも限界がある。

良い点：3段階でレベルアップ。ほめるのは効果的。グループで訪問するのは良い。
改善点：予算があればTAがいるのが理想的。クォーター制はこのゼミには適していない。
成績の評価方法をシラバスでどの程度、明確化するか？

Bグループ 発表用パワーポイント用紙

発表者名 針谷

良い手法

- 3段階でレベルアップ。
- ほめるのは効果的。
- 遠方へ訪問するのは親睦が深まって良い。

改善を要する手法

- 予算があればTAがいるのが理想的（モデル）。
- クォーター制はゼミによっては適していない。
- 成績の評価方法をシラバスでどの程度、明確化するか？

第 11 回 東北大学「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップ 記録用紙

Cグループ	記録者名：工藤 正孝
＜質疑・応答＞ * 日本語で授業？→ 留学生のクラス分けがされていて、日本語習得技能のレベル 6の方に限定されている。基礎ゼミの留学生は 4-6 のレベルの方。 シラバスは日本語で Ok * 一コマ：90分 クォーター制とセメスター制の違い。 集中型→ 合宿などで行う（授業期間外）・開講前にシラバスに記載 * 学生に主体的に考えてもらうことが重要。 * TA について：予算的に厳しい・・・。 * オムニバス形式：4 人などで対応・実験系では TA 申請はしてみるべき。 * 費用の上限→ 事務に直接相談を（必要な予算を喪失）。 ＜授業デザイン＞ <u>基礎ゼミとは何？</u> * 学生に主体的に学ぶための工夫・ポイント → 他の学科の学生もいるので、テーマに対する興味の深さがバラバラ。 ある知見に基づいて考えること！ 学生同士の議論がなりたつような教員の介入・手助けを行う。 座学での導入分で、学生のモチベーションを上げるような話。 ヒントの内容や出し方。学生の調べたことに対して、最後に議論する。 * 海外から赴任された先生より→英語で授業にする予定。サポート体制は？ 授業の準備をするのが大変。資料の日本語を英文化する？教務科が窓口？ 英語授業は国際化に役立つのでは？1 年生の英会話力はそれほど高くはないか。 Cf. 東北大学グローバルリーダープログラム→こちらにエントリーの学生がいいの ではないか？こちらに登録するのがいいのではないか。 * 期末レポート：グループ・プレゼンテーションについて。 レポート：1、<u>自分が授業で知って感じたこと</u>、2、<u>他の学生の話</u>を聞いて面白かった こと。各 1200 字程度。こちらを毎回やることで、テスト期間になってからやり始めなく ともいい。授業内容をレポートに落とし込める？ レポートの採点基準は？→あるテーマにそっていれば B. 留学生は日本語の良し悪しでは 採点はしない。自分で考えているか？自分で調べているか？などを基準。毎回の発表は 30 分とる。レポートの基準・書き方についても説明している。 レポートは感想文ではないとことを教える。レポートの構成についても話す。 型はいいが、考察は浅い傾向。新書を 1 冊は読ませる。参考文献をつける。 情報を集めてくるだけでは評価は低い。	

* 学生の議論への介入→ 議論が停滞・あるところから広がっていかないところで介入する。留学生からの質問などが多い（積極的）。

日本人学生の真面目でシャイな部分に、どうやってアプローチしていくか。

まずは自由討論ができる空気ができるまでが大事。教師側の意識・学生に話しかけていける？（教師側のキャラクター）。

* 改善を要する場合：

複数の教員での授業は連携が大事。

最後の発表は、学生は一人ずつ？数人で発表させる？

グループでの発表は誰のコントリビューションが分からない。

授業外での学生同士の作業は避けたほうがいい？

個人でやれる作業に落とし込むべき？

グループでの発表を好む学生が多いようであることも事実。

グループ内で相互評価させる（自分が3で、その他のメンバーの頑張りを数値かする）。

グループ全体の出来の評価と、グループ内のプレゼン準備・パフォーマンスの

個人の評価。

留学生の学生（年齢が高い）→議論で圧倒する傾向は？

改善案として、はじめは留学生と日本人学生の発言のテーマを指摘する。

それから、次第に話し合いという状況に慣れてくる。

日本人学生が英語で議論では萎縮してしまう懸念あり。

議論のグラドルールを決める（必ず質問する。ネガティブな発言はしない）。

Cグループ 発表用パワーポイント用紙

発表者名 福島 洋

良い手法

- 最初の段階で、レポート課題の題目・評価基準・簡単な体裁をあらかじめ伝えておく。
- 議論が停滞などをしている際は、面白い方向に議論が展開するために介入する。学生に考えさせるための質問を投げかける形で。
- 学生とのコミュニケーションの時間を長くとる。学生がしゃべることが簡単にできる空気作り。
- 個人でプレゼンしてもらおうと評価しやすい・個人の貢献が見える。グループ発表は相互評価（自分を基準にした貢献度合いの相対評価）をしてもらおうとよい。
- ディスカッションのグラドルール（必ず質問する、等）をあらかじめ決めておく。

改善を要する手法

- 複数の教員で担当する場合、担当教員間の連携

6. アンケート集計結果

第11回東北大学

「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップアンケート

今後の「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FDを計画するうえで参考と致しますので、アンケートにご協力をよろしくお願い致します。

◇ 1から6の問いについては該当する数字を○で囲み、ご意見のある方は自由記述欄にお書き下さい。

1 基礎ゼミ又は展開ゼミ担当経験の有無についてお聞きます。

1. 初めて 2. 1回経験 3. 2回以上経験

2 今回のFDで知りたかった、参考にしたかった内容は何ですか。当てはまるものすべてを選択してください。

1. 初年次学生への対応 2. シラバス作成のポイント 3. 授業テーマの設定
4. 授業の組み立て方 5. 「学びの転換」の育み方 6. 「主体性」の育み方
7. その他（具体的に）_____

3 オリエンテーションでは、基礎ゼミ及び展開ゼミの意義や実施上の留意点等を確認できましたか。

1. できた 2. どちらともいえない 3. できなかった

自由記述欄（具体的に）_____

4 「ゼミ実践事例の報告」では必要な情報を獲得できましたか。

1. できた 2. どちらともいえない 3. できなかった

自由記述欄（具体的に）_____

5 講演「配慮を要する学生の理解と対応」では必要な情報を獲得できましたか。

1. できた 2. どちらともいえない 3. できなかった

自由記述欄（具体的に）_____

6 ワークショップを通し、ゼミを設計し実施するための情報が獲得できましたか。

1. できた 2. どちらともいえない 3. できなかった 4. 参加しなかった

自由記述欄（具体的に）_____

7 次の点についてご回答ください。(1)FDへの参加により学んだこと、(2)課題として残されたこと、は何ですか。また、(3)今後、提供して欲しい情報は何か。

(1) _____

(2) _____

(3) _____

※ アンケートへのご協力ありがとうございました。

※アンケート結果 基礎ゼミ FD 参加者数 65 名。回答者数 31 名。
以下、【】内は回答数と回答者数に対する割合（％）。

第 11 回東北大学

「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップアンケート

今後の「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD を計画するうえで参考と致しますので、アンケートにご協力をよろしくお願い致します。

◇ 1 から 6 の問いについては該当する数字を○で囲み、ご意見のある方は自由記述欄にお書き下さい。

1 基礎ゼミ又は展開ゼミ担当経験の有無についてお聞きます。

1. 初めて【16 (52%)】 2. 1 回経験【6(19%)】 3. 2 回以上経験【9(29%)】
4. 無回答【0(0%)】

2 今回のFDで知りたかった、参考にしたかった内容は何ですか。当てはまるものすべてを選択してください。

1. 初年次学生への対応【11(35%)】 2. シラバス作成のポイント【6(19%)】
3. 授業テーマの設定【7(23%)】 4. 授業の組み立て方【20(65%)】
5. 「学びの転換」の育み方【8(26%)】 6. 「主体性」の育み方【16(52%)】
7. その他（具体的に）【2(6%)】 下に記載。
8. 無回答【0(0%)】

7. その他（具体的に）

- 実験経費。
- 配慮を要する学生への対応。

3 オリエンテーションでは、基礎ゼミ及び展開ゼミの意義や実施上の留意点等を確認できましたか。

1. できた【28(90%)】 2. どちらともいえない【3(10%)】 3. できなかった【0(0%)】
4. 無回答【0(0%)】

自由記述欄

1. できた

- 座学を少なくして、学生に考えてもらえることを多めに、メインにする。
- ゼミの主旨。
- ペアの組み方や、ハラスメント防止。

4 「ゼミ実践事例の報告」では必要な情報を獲得できましたか。

1. できた【25(81%)】 2. どちらともいえない【6(19%)】 3. できなかった【0(0%)】
4. 無回答【0(0%)】

自由記述欄

1. できた

- レポートと考えさせることがメインにされた授業とのリンク、工夫の仕方。
- ゼミの様子のイメージがわかりましたし、聴いていて、おもしろいと思った所や、興味感心をひかれた指導を、実際にとりいれてみようと思いました。
- 授業パターンが理解できた。

5 講演「配慮を要する学生の理解と対応」では必要な情報を獲得できましたか。

1. できた【24(77%)】 2. どちらともいえない【7(23%)】 3. できなかった【0(0%)】
4. 無回答【0(0%)】

自由記述欄

2. どちらともいえない

- 席を外していました。

6 ワークショップを通し、ゼミを設計し実施するための情報が獲得できましたか。

1. できた【21(68%)】 2. どちらともいえない【3(10%)】 3. できなかった【1(3%)】
4. 参加しなかった【4(13%)】 5. 無回答【2(6%)】

自由記述欄

1. できた

- 学生さんに議論させるコツや、モチベーションを保てる工夫。
 - 授業デザインや、レポートの形式など。
2. できなかった
- 意見交換するには、もう少し少人数の方が良いと思いますし、経験者、未験者を、まぜた方が良かったのでは…。

7 次の点についてご回答ください。(1) FD への参加により学んだこと、(2) 課題として残されたこと、は何ですか。また、(3) 今後、提供して欲しい情報は何か。

(1) 基礎ゼミ FD への参加により学んだこと、は何ですか。

- 授業デザイン。
- 基礎ゼミのねらいをより理解できた。その実施に向けた工夫なども学んだ。
- 基本的な考え方。
- 基礎ゼミの位置づけ。
- 他の基礎ゼミでの取組が分かった。もっとたくさん事例について聞けるとよい。
- グループでの実習の評価法など。
- 成績評価の明確化、学生への配慮。
- 色々なパターンを知れた。
- 多様な学生の存在。

(2) 課題として残されたこと、は何ですか。

- 制度的な基本情報が先生方に伝わっていないので、ワークショップもその質問が多かった。(TA 制度など)
- シラバスの書き方について、明瞭に書けるように努力したいと存じます。
- 思っていた以上に、基礎ゼミについて、イメージ等が伝わっていない先生方が現時点

では多いように感じた。このような機会の前に、制度についてもっと説明が必要だと感じた。ワークショップでは、授業の組み立て方などを議論できると考えていたのですが、人によって認識が違ったようなので、申し込みの際にもう少し内容について説明があった方がいいと思います。

- 研究室としての授業構成、担当部分。
- 分科会の意義がよくわからない。
- ワークショップでタイプが異なる基礎ゼミの先生が多いとディスカッションしづらい。
- 全学の学生に、よかったと思ってもらえるテーマは何か。
- 特になし。
- 実践。
- 学修に対して“ヒント”の出し方、答えを提示しすぎないようにする方法。

(3) 今後、提供して欲しい情報は何か。

- ワークショップでの議論のメモ（後日発行されると思いますが…）。
- 川内キャンパスと星陵キャンパスとの移動、レポート提出方法。
- 基礎ゼミの成績の意義。成績は必要か？
- レポートの書き方やフォーマットなど。
- 特になし。
- 失敗する原則。
- 「レポート指南書」の内容を知らないなので、配付して欲しい。

編集担当：東北大学高度教養教育・学生支援機構准教授 葛生政則

IEHE Report 74*

第 11 回東北大学「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップ－報告書－

2018 年（平成 30 年）2 月 発行

東 北 大 学 学 務 審 議 会
東北大学高度教養教育・学生支援機構

〒980-8576 仙台市青葉区川内 41 TEL 022-795-7551

<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/>

*No.55 以前は CAHE TOHOKU Report として刊行

